

2023-2024

Yokohama National University  
Organization for Local Collaboration Networking  
Global-Local Education and Research Center

横浜国立大学  
地域連携推進機構  
地域実践教育研究センター

Annual Report  
2023-2024



YOKOHAMA

*Think Globally,*  
**Act Locally.**

地域実践教育研究センター  
Global-Local Education and Research Center

# 地域実践教育研究センター

Global-Local Education and Research Center

地域実践教育研究センターは横浜国立大学内の各部局を横断的につなぎ、「地域」に関わる「教育・研究」を実施・推進することにより、地域活性化と地域創造を促進させていきます。

## ●設立経緯・これまでの歩み

地域実践教育研究センターは2004年に文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」事業に採択されたこと契機に、2004年の後期（秋学期）から「地域課題プロジェクト」を開始し、2005年から「地域交流科目」の設立に向けてコア科目などの各授業を開設しました。その後、2006年から「地域交流科目」の設立および本格運用をし、2007年に「地域実践教育研究センター」が開設されました。また、2012年からは大学院副専攻プログラムとして「地域創造科目」を設置しました。

2017年には「地域連携推進機構」が設立され、2019年度から地域実践教育研究センターは地域連携推進機構の機構内センターとして位置付けられました。

現在、学部副専攻プログラム「地域交流科目」の地域課題実習においては毎年数百名ほどの学生が履修・参画しており、横浜・神奈川地域をはじめ国内外の各地域において地域活性化、地域支援活動を実施・展開しています。

## CONTENTS . . . . . 01

### 地域交流科目 [学部 副専攻プログラム] . . . . 02-19

Under graduate Sub-major program "Local-exchange Subjects"

#### 地域課題実習

01. アグリッジプロジェクト
  02. BOSAI ラボ
  03. モビリティ・デザインの実践
  04. コットンおとなりさん PJ
  05. キャンパスの魅力を耕すプロジェクト
  06. 川根本町プロジェクト
  07. はまみらいプロジェクト
  08. 島プロジェクト
  09. 岩手らばーず
  10. New-New Town プロジェクト
  11. 転倒しない街共創ラボ「こらぼ」
  12. おおたクリエイティブタウンセンター
  13. データで捉える地域課題・地域経済
  14. サコラボ
  15. 里山コミュニティデザイン
  16. ローカルなマテリアルのデザインプロジェクト
  17. まちに開いた交流の場のデザイン
  18. みなとまちプロジェクト
  19. ワダヨコ
  20. ハマの屋台プロジェクト
  21. 南米農村部での学びを生かした横浜「共生」PJ
  22. YUC (Yokohama Univer-City)
  23. 再エネ経済循環プロジェクト
  24. 横国 VR キャンパスプロジェクト
  25. キャンパス UD プロジェクト
- Topics

### 地域創造科目 [大学院 副専攻プログラム] . . . . 20-21

Graduated school Sub-major program

" Creative education program about local problems"

### 研究 . . . . . 22-23

Research

- 1. 学際的研究
- 2. 地域研究

### 地域連携推進機構 . . . . . 24

Organization for Local Collaboration Networking

- ・ 地域連携推進機構について
- ・ 地方自治体との連携協定
- ・ Next Urban Lab

### 関連教員 . . . . . 25-27

The Relationship Professors

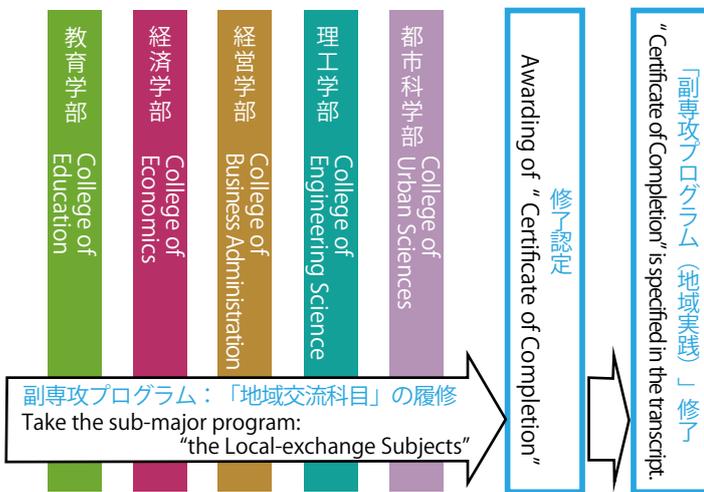
## ■地域交流科目について

地域交流科目は「グローバルな視野をもって地域課題を解決する、先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム」として、横浜国立大学の全学部生が履修可能な副専攻プログラムです。

このプログラムは、①コア科目、②講義科目、③実践科目の3つの科目で構成されています。 所定要件の10単位以上を習得すると、副専攻プログラムの修了認定を受けることができます。

## ■About the "Local-exchange Subjects"

The Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects" connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. Students can receive completion authorization when they acquire the prescribed credits of the sub-major program.

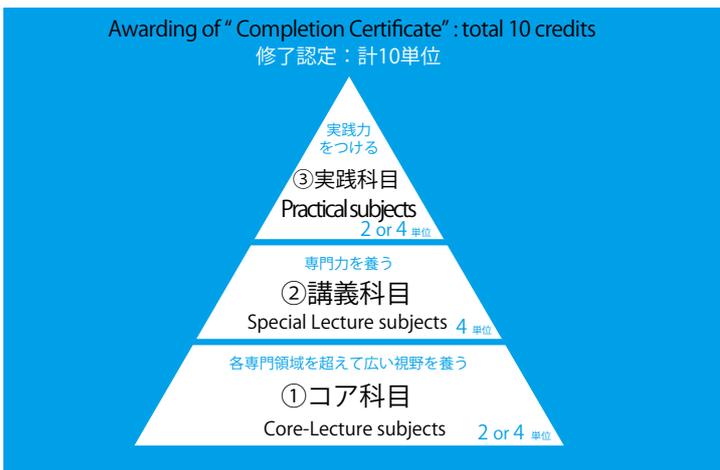


## コア科目:「地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)」

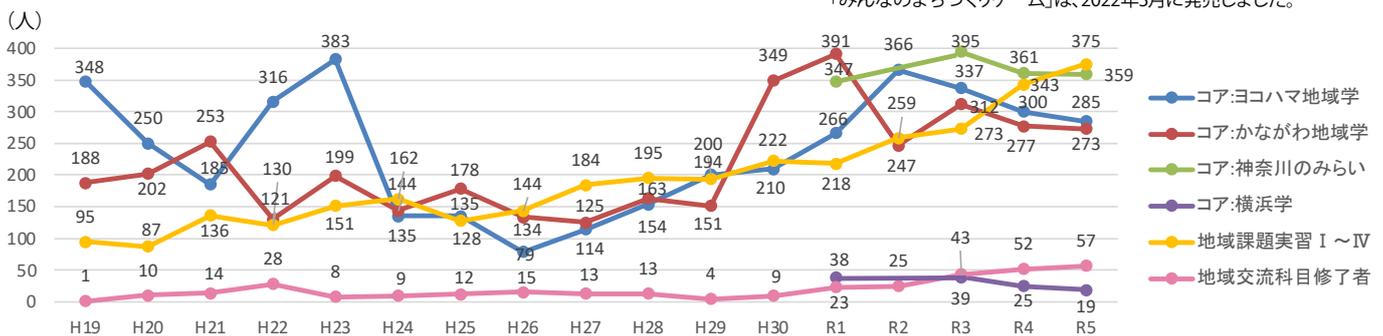
回	講義テーマ	講師
1	概論(1)オリエンテーション・横浜の成り立ち	志村真紀・内海宏
2	概論 (2) 横浜という都市を通して日本の近代化を語る	野原卓
3	概論 (3) 世界の中の横浜、日本の中の横浜	高見沢実
4	フィールド (1) 都心地域の現状と課題	野原卓
5	フィールド (2) 郊外地域の現状と課題	内海宏
6	フィールド (3) 中間地域の現状と課題	志村真紀
7	今日の横浜の都市課題(1) ～人口減少社会に向けて～	稲垣景子
8	参加型授業 (1) 現地調査	-
9	参加型授業 (2) 中間報告会	志村・内海・秋元
10	今日の横浜の都市課題(2) 国内外の港町における地域課題と再生モデル	山崎満広
11	地域再生モデル (2)都市農地再生と地域まちづくり	内海宏
12	地域再生モデル (1) クリエイティブシティと都市政策	秋元康幸
13	地域再生モデル (4) 子どもとまちづくり	三輪律江
14	地域再生モデル (3)商店街と地域まちづくり	志村真紀
15	参加型授業 (3) 各地域の課題と解決方法について発表・討論する	志村・内海・秋元

## コア科目:「地域連携と都市再生A(かながわ地域学)」

回	講義テーマ	講師
1	オリエンテーション	志村真紀
2	エネルギー	大森明
3	地域をめぐるとお金の流れ: 地域経済	池島祥文
4	地方行財政	伊集守直
5	(福祉と) 地域経済	伊集守直
7	箱根町の観光まちづくりへの取り組み	箱根町行政・池島・伊集
6	東武・小田原市: SDGsの時代における地域経営 ～持続可能な地域社会モデルへ～	加藤憲一
8	政令指定都市: 横浜市: SDGsへの取り組み	信時正人
9	南足柄市の特徴と今後の政策について	南足柄市行政
10	みんなのまちづくりゲームのプレー方法	池島・志村・伊集・浅野
11	第1回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	池島・志村
12	第2回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	志村・伊集
13	第3回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	伊集・志村
14	第4回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	志村・池島
15	第5回 参加型授業 最終レポート発表会・討論会	池島・伊集・志村



地域連携と都市再生B(かながわ地域学)の参加型授業の教材として開発した「みんなのまちづくりゲーム」は、2022年3月に発売しました。



コア科目と地域課題実習の履修者数 The study number of people





## アグリッジプロジェクト Agridge project



### 「農」と「食」の力で地域活性化を目指す Aiming to revitalize local communities through the power of "agriculture" and "food"

- 学生：17名（清水翼, 松木杏志郎, 伊東秀真, 飯田朱音, 石井夏帆, 上床穂乃香, 藏重光希, 田中麻奈美, 村山美咲, 石川智清, 今井悠翔, 北浦竜之介, 工藤優太, 中館美卯, Casey Frey, Yim Seryeong, Brandon Houston)
- 担当教員：池島祥文, 小林誉明
- 連携・協力：藤巻芳明, 常盤台コミュニティハウス, 常盤台地区連合町内会, 株式会社横浜ビール, 和田町商店街, 矢郷農園, 炭火烧肉大将军, 社会福祉法人開く会, パニヤンツリーベーカリー, FM上星川, 特定非営利活動法人 居場所そら, ひまわり亭, アジアンキッチンわだ, 異食堂すみれ
- 活動地域：学外農地, 横浜市(保土ヶ谷区他), 小田原市上曾我地域
- サイト：<https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/>

アグリッジプロジェクトは農業による地域活性化を理念に掲げ、商品開発・Agrink・Agreeting・和田べんの4部門で活動しています。

商品開発部門では社会福祉法人開く会と協力し、摘果される青みかんを使った焼き菓子を開発・販売しました。野菜を生産するAgrink部門では農業日報アプリを導入し、全員で野菜の管理を行いました。

4部門のなかでも今年度は、「人と人、人と知識をつなぐ」が理念のAgreeting部門に注力しました。活動内容は食・農に関連したイベントの企画・実施です。

イベントでは種から育てたポップコーンの販売と、野菜はんこのワークショップを行いました。はんこの材料は梱包時に捨てられる葉っぱや茎などです。思い思いのうちわや絵ハガキ作りによって、子どもたちが野菜に親しむ機会を提供しました。

自主企画では、自分たちの野菜の味を知るため、焼きいも会と野菜餅づくりを企画しました。焼きいもを調理する際に使用した燃料の古竹とピザ窯は、学内の2つの団体から提供していただきました。共に調理したものを食べることは、日頃の畑作業よりも深い交流につながったと考えています。

秋学期には交換留学生を受け入れ、地域の方との畑作業や先述のイベントなどの活動を行いました。食や農は国籍・年齢に関係なく楽しむことができ、地域活性化の手段として相応しいことを再確認しました。

今年度の活動では、コロナ禍で希薄化した地域との交流を取り戻しただけでなく、学内で新たなつながりを築くことができました。来年度は我々の野菜を使うのに加え、食・農に関する企画から理念の「人と人をつなぐ」きっかけを生み出していきます。



## BOSAIラボ BOSAI Lab. (Disaster Mitigation Lab.)



### 防災・減災のために、大学生としてできることを Do our best for "BOSAI" (disaster mitigation)

- 学生：27名（明日海斗, 松尾祐輝, 大塚晴紀, 粕谷昌貴, 藤田光, 堀 雅也, 鄭宇軒, 小岩井優子, 鳥谷佳菜, 秀島美咲, 加藤瑞樹, 柴山遼太郎, 武次稀凜, 得田実愛, 河村優結, 平野晴哉, 柳澤美那, 湯本莉衣, 石川巧, 乾大和, 柴崎創芽, 島田愛果, 鈴木皓斗, 瀧本早蘭, 平岡茉瑠乃, 福井智通, 脇田知怜)
- 担当教員：小松裕史, 細田暁, 稲垣景子
- 連携・協力：豊かな社会のための防災研究拠点, 福山市立鞆の浦学園
- 活動地域：常盤台キャンパス周辺, 福山市鞆の浦
- サイト：<https://bosai-lab.ynu.jp/>

BOSAIラボは「防災」をフィールドに、大学生としてできる防災・減災に資する活動を考え、実践していくプロジェクトです。今年度は4つの実践チームと2つの研究班に分かれて活動しています。

横国生チームは留学生の防災意識向上に向けて活動しています。春学期には大学の留学生係の方に協力していただいて留学生の防災意識のアンケート調査を行いました。来年度に向けてはまみらいPJの防災チームと協力して留学生向けの防災イベントを企画しています。

避難所チームは避難所を対象に理想的な空間づくりや制度について考えています。災害発災時には一時避難場所となる横国のキャンパスでできる工夫を考え、実際にやってみることで、有事でも快適に過ごす方法を模索しています。

防災行動チームは市民の防災行動に関する知識を深めるために活動しています。横国生に向けて「通学中に被災した時の行動」についてのアンケート調査を行いました。今後はその状況を想定してとるべき防災行動をロールプレイし、フィードバックしていきます。

まち歩きチームはバリアフリーの避難誘導に焦点を当て、常盤台キャンパスの周辺で、避難経路の策定や危険な場所の確認をするフィールドワークを行っています。実際に車いすを使われている大学院生の方とのコラボフィールドワークも行いました。

旧地名班は消滅した地名と災害との関係を調べています。地名の研究を通じて地域の災害リスクを整理し、防災意識向上に貢献します。

防災教育班は福山市立鞆の浦学園を訪問し、細田先生の防災授業のお手伝いを行いました。今後も鞆の浦学園の連携を続けていきます。

来年度は、10月のぼうさいこくたい出展を目指し、引き続き防災のためにできることを模索・実践していきたいと思えます。



## モビリティ・デザインの実践 Mobility design in practice



### 都市をより魅力的にし、日常生活を彩る。 Making cities more attractive and enriching everyday life.

- 学生：23名（白岩元彦, 宮内爽太, 久保春奈, 伊藤広登, 谷多佑, 渡邊瑛大, 伊藤琢人, 延原翠, 中原船登, 今井薫, 中田結貴, 大久保聡志, 渡部羅, 仙波亮太, 村山拓己, 土田倫成, 齊藤優, 山口優生, 高木希海, 山口慧, 峰龍太郎, 辻慎太郎）
- 担当教員：池島祥文
- 連携・協力：LocalIST(株), 京急電鉄(株), アットヨコハマ, 横浜市地域まちづくり課, 藤沢市都市整備課
- 活動地域：神奈川県横浜市(関内地区, 横浜国立大学, 京急富岡地区), 藤沢市
- サイト：<https://mobilitydesign.localinfo.jp/>

モビリティ・デザインの実践プロジェクトでは、まちの移動のしやすさや暮らしやすさに注目し、地域の皆様と共に、まちの魅力を高めるための実現方策を描くことを目標に活動しています。神奈川県内各地域で、カウンターパートナーの皆様と実社会の課題に取り組んでいます。

2023年度は、23名の学生が4つの班に分かれて活動をしました。みらいの地図班では、横浜国立大学のデジタルキャンパスマップ「Y's navi (ワイズナビ)」の開発を行いました。

MaaSでまちづくり班では、若者が関内地区に親しめるようにするべく、関内の飲食店を紹介するマップの作成を行っています。

京急富岡班では、地域の共有空間である「おかまちひろば」や、地域イベント「おかまちひろば」での企画実施等を通じて、まちの魅力発信や地域内の交流促進を目指しています。

村岡新駅班では、約10年後に開業予定の村岡新駅周辺のまちの姿や人々の生活を描き出すために、地元の方々や小学生を対象にしたワークショップイベントを藤沢市とともに開催しました。

来年度はこれまでの活動を継続しつつ、連携先や地域の方々とのさらなる協力を図ります。魅力的な都市地域社会を目指して、より移動しやすく、移動が楽しくなる仕掛けや目的作りを通じ、魅力あるまちづくりを目指してまいります。



## コットンおとなりさんプロジェクト Cotton Otonari-san Project



### 高層マンション群の住民が おとなりさんと繋がることのできる居場所を To create a place where residents of high-rise apartments can connect with their neighbors

- 学生：6名（美藤優斗, 安慶萌花, 入山璃暖, 佐々木遼太, 佐藤美優, 村山優々）
- 担当教員：伊集守直, 関美佐子
- 連携・協力：Cotton Community Town (CCT), 各自治会
- 活動地域：コットンハーバー地区（横浜市神奈川区）
- サイト：[https://cottonct.org/about\\_cotton\\_otonari\\_pjt/](https://cottonct.org/about_cotton_otonari_pjt/)

現在、都心部への人口集中を背景に、マンションの増加が目立っています。また、高齢社会となっている日本では、住民間の助け合いが以前より一層重要になってきました。そこで本プロジェクトは、横浜市神奈川区にある「コットンハーバー地区」というタワーマンション群で、世代を超えて住民がつながることのできるコミュニティを作ることを目的に活動しています。

私たちは、2023年度、地域団体CCT(Cotton Community Town)や自治会、神奈川大学の学生などと協力しながら、主に5つの活動を行いました。一つ目は、地域交流や居場所の創成を目的としたCCTパークや子どもの自由な遊びを促すプレイパークなどの地域イベントの運営協力です。二つ目は、団体とその活動の知名度向上を目的とした公式LINEの運営やチラシ作成などの広報活動です。三つ目は、新たな地域ネットワーク形成や知名度向上のためのフリーマーケットの企画及び運営です。四つ目は、有事の際に備えて地域の特性を踏まえた防災情報を発信する動画の作成です。最後に、五つ目は、地方を元気にするアイデアを広く募集している「地方創生デザインアワード」への参加です。

2023年度は、前年度から継続して地域イベントの運営協力や広報活動を進めたことに加えて、10月に開催した第二回フリーマーケットでは参加者が約400人にもなっており、より多くの方に活動を知ってもらえることができました。これを受け、地方創生デザインアワードでは、約一年間のフリーマーケットの準備による地域のつながりづくりを主軸に活動の目的や今後の展望をアピールしました。2024年度は、これまでの活動に加え、フリーマーケットの企画や準備のなかで、地域に住む方々のつながりをさらに増やしていくことに注力していく予定です。



## キャンパスの魅力を耕すプロジェクト Cultivating attractions of campus project



キャンパスの土から新たな活動を掘り起こす。  
Digging up new activities from the soil of the campus.

- 学生：9名（青柳篤広、熊谷風音、寺澤慶、鈴木健弘、伊藤きい柚、小栗航太郎、川井慶、清水琴美、鈴木日夏莉）
- 担当教員：藤原徹平
- 連携・協力：Y-GSAインディペンデントスタジオ「耕すPJ」
- 活動地域：常盤台（横浜国立大学キャンパス内）

コロナ禍により屋内に人々の居場所が失われたことを背景に、屋外空間での居場所づくりに可能性を見出しました。居場所をつくること、つかうことを通じて地域との交流を深めることを目的としています。緑豊かな大学内の資源を活用し、そこを訪れる人々が自由に居場所を見つけられるような魅力的なキャンパスを目指します。

春学期にはY-GSAのプロジェクトに学部生が参加し、レンガ作りや施工方法を学び、秋学期では学部生だけで活動を展開しました。今年度はキャンパスの資源由来のプロダクトづくりを目指し、日干しレンガの技術を活用しながら、版築によって窯を制作しました。試作段階ではあるものの、窯の温度は800°Cまで上昇するなど、一定の結果を得られました。さらに、窯を設置した場所が新たなキャンパス内の活動の場所としてのポテンシャルを見せてくれました。今後、ここで学外の人を巻き込んだイベントをしていくことも考えています。プロダクト製作に限らず、昨年度までの活動のノウハウも生かしながら、キャンパス内資源を活かし、学生と地域の交流を促進し、学びを活かす取り組みを展開していきます。

今後の活動では、窯を使った陶器の制作を進め、得たデータを粘土や窯に反映させていきます。また、ワークショップや大学周辺の陶芸サークルと連携した企画を考えています。さらに、窯の周辺に日干しレンガを応用したベンチやテーブルを設置して、Y-GSAのキッチンと一体となった空間を構想しています。大学の土がコミュニティを育む土台となることに期待し、新たな活動を創出していきます。



## 川根本町プロジェクト Kawane-Honcho project



「美しい村」である川根本町で  
被害から茶産業を守るために鹿肉の啓発活動をしています  
We are working to raise awareness of venison in  
Kawane Honcho, a “beautiful village,”  
to protect the tea industry from animal damage.

- 学生：6名（長嶺裕太郎、垣内学、上河内廉太郎、山本聖奈、佐藤慶嗣朗、田室志織）
- 担当教員：山崎満広
- 連携・協力：川根本町役場、株式会社リバーラーツ、地域町おこし協力隊
- 活動地域：静岡県榛原郡川根本町

静岡県の山間部にある川根本町は古くから茶産業で有名です。しかしながら、近年は鹿や猿などによる獣害に伴う耕作地破壊が進行しており、地域産業の根幹が揺らいでいる状況です。また、駆除された鹿の利活用はあまり進んでいないのが現状です。そこで私たちは、地域の活性化を目指して鹿肉の啓発活動をしています。

今年度の大きな活動の一つは常盤祭への出店です。常盤祭では「鹿肉の多い料理店」で、鹿肉トルティーヤや川根のお茶を使用した白玉、アイスを提供しました。物品については、川根本町で鹿角製品を製作・販売されている「リバーラーツ」様の商品を販売させて頂きました。鹿肉トルティーヤに関しては三日間で200食以上を売り上げ、お客様からも臭みがないとの声を頂き大変好評でした。また、川根本町役場の方からのぼりやはっぴ、チラシを貸して頂き、広報活動も行いました。

現在並行して取り組んでいるのが、美しい村レシビコンテストへの出品です。こちらでは、鹿肉を使った棒葉焼きと鹿肉トルティーヤの出品を行いました。今年の現地訪問では、久野脇地区でのトイレのデザインコンテストと、川根時間のイベントに参加させて頂きました。

常盤祭での反響から、鹿肉については市場に受け入れられる可能性があると考えています。そこで、川根本町の狩猟イベントの際にも料理を提供できればと考えています。また、鹿肉だけではなく他のジビエ加工肉についても、需要と供給についての可能性を探っていきます。

鹿角製品に関しては本学で鹿の革製品を使った製品を作って起業している方や、経営学部でジビエについて研究されている先生がいっぱいいるようなので、そういった方々ともコラボしたり意見交換したりしていきたいと考えています。



## はまみらいプロジェクト Hamamirai Project



### みらいへの架け橋を創る、ハマのオールラウンダー We are the all-rounder to create the bridge to the future of YOKOHAMA

- 学生：36名（石和京華, 天野雄浩, 飯田理紗子, 伊藤美輝, 河野ひなた, 権頭望夢, 明事巧馬, 濱田幸大, 安宅建人, 久保智裕, 家護谷駿, 藤田光, 松田大生, 加藤汐夏, 齊藤優, 眞田季依, 瀧川由香, 大野倫, 延原翠, 室田美玲, 石坪秀一, 鈴木美空, 竹島優姫, 恒住彩和子, 西村柊哉, 石井遥大, 伊藤理名子, 中山瑞規, 青木遥香, 宇野凜真, 小林蒼生, 坂元夏希, 高田祥英, 波平恵采, 平井優作, 高橋寿志)
- 担当教員：吉田聡, 野原卓, 稲垣景子
- 連携・協力：UDC-SEA, 横浜市, 横浜みなと博物館, Yocco18, 常盤台コミュニティハウス, 幸海ヒーローズ, 株式会社ELMA
- 活動地域：横浜海沿い地域
- サイト：<https://hamamirai.localinfo.jp>, [https://twitter.com/hamamirai\\_bosai](https://twitter.com/hamamirai_bosai), [https://twitter.com/yoko\\_hamamirai](https://twitter.com/yoko_hamamirai)

はまみらいプロジェクトは、海洋都市横浜の街づくりに関するUDC-SEAの活動理念を元に創設されました。横浜を学生の立場からより良い都市にすることを目的とし、海沿い地域をフィールドに、3つのチームに分かれ、魅力の発信・課題の改善に取り組んでいます。まちあるきチームでは、外部団体の方とも連携して金沢区と港北・鶴見区のみちあるきを行いました。道中では、周囲の建物や地形について話しながら、一日を通して地域の新しい魅力を発見することができました。また、昨年度作成したうみはまっぷすごろくを、多くの方に体験してもらう機会も作る事ができました。今後も、自分たちの目でまちを見つめることができる活動を行っていく予定です。

防災チームでは、防災KOKUDAIに向けて防災人生すごろくを作成しました。止まるマスによって様々な災害が起き、それらをどんな防災グッズを用いて対処するかを考えるものです。ゲーム形式なので小さい子どもたちでも、楽しみながら防災の知識を深められます。防災KOKUDAI後も市役所や地域のコミュニティハウスなどで実際に遊んでもらい、ゲームの改良を行ってきました。今後はこのゲームを小学校の授業に取り入れるなど活動を広げていく予定です。

ブルーカーボンチームでは金沢区でコンブを養殖を通して活動されている方々と協力し、近年地球温暖化対策として注目されているブルーカーボンの周知するために様々な活動を行いました。常盤祭では学生がパッケージデザインを手がけたコンブを肥料にしたお茶やコンブが入ったバスソルトを販売しました。今後はコンブの水揚げイベントなどに参加し活動の周知を図っていく予定です。

今後はチーム活動や個人の記事作成などで得られた経験や知識、構築された人々とのつながりを生かして、メンバーのやりたいことを活動に取り入れ、横浜の街をよりよい街にできるよう活動していきます。



## 島プロジェクト in 鳥羽 ～現代世界の課題の探索と協力の実践～ Island Project in Toba -Discovering the Challenges of the Modern World and Practicing Cooperation



### 三重県答志島をフィールドに 島民と共に島の未来を創ります！ Creating the future of the island with people live there ～In Mie prefecture Toshi～

- 学生：9名（落合祐規, 八郷真理愛, 松本慧, 徳永裕隆, 浮田有我志, 大湊颯太, 上妻慶大, 前田龍之介, 長岡芽生)
- 担当教員：小林蒼明
- 連携・協力：鳥羽市地域おこし協力隊 正林泰誠様, 三好美咲様, 鳥羽市議会議員 濱口正久様, 鳥羽市, その他答志島の住民の皆様
- 活動地域：三重県鳥羽市答志島
- サイト：[https://www.instagram.com/shimaj\\_toba](https://www.instagram.com/shimaj_toba)

当団体は三重県鳥羽市答志島を起点に離島の文化や生活を理解し、その過程の中で発見した強みを伸ばし弱みを補う工夫を地域の方々と共に探っていくというコンセプトの元、2022年度に設立されました。現在は、答志島内の和具地域で以下の2つを運営しています。

#### ①学生拠点プロジェクト

【目的】学生や島民との繋がり・アイデアによる答志島の活気付け  
【活動】現在島内で宿泊する際の選択肢は少なく、金銭的負担や他旅行者への配慮が必要な場合があり学生の来島の障壁となっています。また、どうしても観光客目線になり、リアルな島体験ができなと感じていました。そこで、市から移住体験住宅を借りて学生拠点とすることで、安価の宿泊と島民目線での滞在体験を担保し、島民の方々の手伝いがメインの合宿イベントを企画開催し、学生が島に来るきっかけづくりと学生と島民の繋がりを創出する取り組みを行っています。

#### ②ウッドデッキ制作プロジェクト

【目的】ウッドデッキを介した島民×島民、島民×観光客、島民×学生などの交流の輪による答志島の魅力の向上、ウッドデッキを『看板』とすることによる島内での認知度の向上

【活動】1年目での渡島を通して答志島では同世代で仲が良い人同士との交流が主で他世代や島外の人々とは中々関わりや交流がないのではという課題を感じていました。その中で、交流に適した立地にある土地を貸して頂けるということで、現在、1年を通して島を訪問し、現地で材料を調達しながら、ウッドデッキを設計・制作しています。

今後は、短期的には、今活動している各プロジェクトが目標達成までやり遂げて効果をあげ、長期的には、島の抱える課題を解決して、かけがえのない答志島での営みを持続可能なものと私、後世に残していくことを目指していきたいと思っています。



## 岩手らばーず Iwate-Lovers



### 岩手を全身で味わい、発信する

Experience and transmit Iwate with your whole body

- 学生：24名（西條、清水、鈴木、澤里、原口、藤原、本郷、山田、芹田、白田、會田、嶋田、木内、後藤、塚崎、利守、佐々木勇、吉田、米田、永田、伊藤、佐々木美、前田、森田）
- 担当教員：田中稲子
- 連携・協力：岩手県、岩泉町、葛巻町、二戸市、KEEN ALLIANCE、レッドカーペットプロジェクト、他多くの岩手の皆様
- 活動地域：岩手県、東北地方
- サイト：<https://iwatekyouyoukaunt.wixsite.com/iwatelovers-ynu/blog>

「岩手らばーず」は、私たち横浜の学生にとって文化的・地理的に大きく異なる岩手県や東北地方の様々なエリア、企業、団体を直接訪問し、岩手独自の取り組みや、横浜でも見られるような共通の地域問題を探求し理解することを目的とし、前年度に創設されました。このプロジェクトでは、教室での学びを越えた実際のフィールド体験を通じて、地域コミュニティとのつながりを深めています。今年度は、前年度と比較してチームメンバーが増加し、それに伴いプロジェクトの活動範囲と内容も一層充実しました。

岩手らばーずの活動として中心となっているのが夏の長期休暇を利用した岩手県での長期インターンシップです。2023年度は二戸、葛巻、岩泉のプログラムに参加させていただきました。インターンシップを通して肌で感じた経験や地元の方とのつながりを活用し、横浜国立大学で魅力を発信しています。他にも、各々で沿岸部や農村部に出向き、ドキュメンタリー映像の作成やインタビューの実施、職場体験など様々な活動を行いました。さらに、学内では今年度は5月の清涼祭、6月のオープンキャンパス、9月のぼうさいこくたい、10月の常盤祭に出店し、岩手県で製造販売されているチキンカレーや椿茶の販売を行い、同時に団体としての活動内容やそれぞれの経験を発信しました。

今後は前述した活動の継続に加え、農業・畜産・防災など、各々が興味のある分野に関して、より踏み込んだ活動を行い、さらに深い知識と教養を身に付けることが出来るよう取り組んでいきます。また、活動を通じて得た学びや発見した岩手県の魅力が少しでも多くの人に伝わるよう、そしてそこから関心を持っていただけるよう、情報発信の場を広げるなど、実際のフィールドワーク以外の部分にもより注力してまいります。



## New-New Townプロジェクト Discover the new value of New Town



### 万騎が原で活躍する方々「まきがはらーず」を 冊子&ウェブサイトで発信

Express the charm of "Makigahara-ers", players of Makigahara area through booklet and website

- 学生：12名（赤坂晃太郎、出射みらい、井戸元奏磨、影山萌花、齋藤菜月、水城健太、林滙漢、坂井雅姫、佐山千尋、藤田美涼、森田彩日、油井奎音）
- 担当教員：野原卓
- 連携・協力：万騎が原中央商店会、みなまきラボ運営委員会、(株)オンデザインパートナーズ、横浜市・相鉄グループ(相鉄いずみ野沿線 次代のまちづくり)
- 活動地域：相鉄線二俣川駅～相鉄いずみ野線南万騎が原駅周辺エリア
- サイト：<https://ynunewnewtown.wixsite.com/website>  
Instagram: @ynu\_newnewtown X: @ynu\_newnewtown

私たちは、戦後に神奈川県と相模鉄道によって開発された相鉄線沿線の万騎が原エリアをフィールドに活動しています。横浜駅や都心へのアクセスがよく、かつては人気の郊外住宅地でしたが、高齢化が進んだことであつての活気が失われつつあります。そこで、私たちはかつて「New Town (ニュータウン)」と呼ばれた活気のある郊外住宅地を、新たな形で取り戻し「New-New Town」とすることを目標に活動しています。

今年度は、万騎が原に住む・活躍する地域の皆さんを「知る」、「発信する」活動を行ってきました。まずは6月に、南万騎が原駅前にあるまちづくりの拠点「みなまきラボ」の会員となり、8月に地域の方と交流するイベント「みなまきカフェ」を開催しました。そして9月から約3ヶ月にわたって、みなまきラボ会員や万騎が原中央商店街、これまでお世話になった「まちの先生」の方などへのインタビューを行ってきました。その中で、普段なかなか交わる機会の少ない地域の方々を同時にインタビューする「オープンインタビュー」企画も3回実施し、「みなまきピクニック」や「みなまき一箱古本市」などまちのイベント時の突撃インタビューも含め、合計20回を超えるインタビューを行ってきました。最終的に、私たちは万騎が原で活躍する方々を「まきがはらーず」と称し、皆さんの魅力を発信する冊子&ウェブサイト「まきがはらーずかん」を作成しました。

今年度の地域の方々を「知る」「発信する」活動によって、これまで潜んでいた地域の「ひと」の魅力が可視化され、ニュータウンに住む地元の住民も、外からニュータウンに関わる人も地域に対する新たな発見や愛着につながるのではないかと考えました。さらに今後は、これまで培ってきた地域の方々とのつながりを大切に、ニュータウンの新たな賑わいにつながる活動や企画も展開していく予定です。



## 転倒しない街共創ラボ Not Falling Down City Co-Creation Lab



転ばない街を「技術」「対話」「運動」で現実に！  
何歳でも転倒知らずの世の中へ  
Making Not Falling Down City a Reality through  
Technology, Discussion, and Exercise!  
Toward a world without falls at any age!

- 学生：5名（小川康太，榎本和奏，久保春奈，大谷紗慧，丹羽里歩子）
- 担当教員：島圭介，大沼雅也，藤岡泰寛，小林知恵ほかBSD研究拠点職員
- 連携・協力：BSD研究拠点
- 活動地域：常盤台ケアプラザ，左近山ケアプラザ
- サイト：<https://bsd.ynu.ac.jp/index.html>

転倒しない街共創ラボ「こらぼ」は高齢者の転倒リスク計測技術の社会実装を通して、誰もが転倒を恐れることなく健康に過ごせる街を実現することを目的として、2022年度に創設されたプロジェクトです。

2023年度は常盤台ケアプラザを主な活動場所として、近隣にお住まいの後高齢者に対して、全2回の継続的改善プログラムを実施しました。1回目では転倒リスク測定技術に関する説明と体験、計測結果と普段の生活リズムに基づいた改善体操の提案を行い、2回目では改めての再計測と改善体操に対するディスカッションを行いました。

左近山地域ケアプラザでは保健活動推進員保活の方々を対象に、転倒リスク計測の体験会を実施しました。自分の担当している地域でどう活かそうか、不安な点は何か、様々な視点から貴重な意見を頂きました。

運動に対するインセンティブの検討として、地域通貨に関して藤岡先生を始め、神奈川県の職員や大学教員と意見を交わし、地域通貨の良い点、悪い点、持続的な運用のための仕組みについて学びました。

今後は、まず2月初週に開催されるYOXO FESへ出展し、転倒リスク計測技術の基礎となる現象に関連したワークショップを実施します。幅広い年齢層の方々にも興味を持って体験してもらい、転倒リスク計測技術に対する期待や不安の聞き取りを行い、来年度以降の活動へ活かしていく予定です。引き続き、転倒リスク計測技術が当たり前に使われ、誰もが転倒することなく健康に過ごせる社会の実現を目指して、市民の方々と対話を重ねて参ります。



## おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト OTA CREATIVE TOWN PROJECT



“モノづくり”を活かし  
大田区ならではの魅力あるまちづくりに取り組む  
I make use of "manufacturing"  
I work on attractive town planning only in Ota

- 学生：11名（的羽祐奈，小泉勇真，佐々木健斗，古田峻馬，東陽輝，三吉康太，安井健悟，都筑あずさ，森田彩日，宮沢七菜，芝上明花香）
- 担当教員：野原卓准教授
- 連携・協力：東京都立大学，大田観光協会，工和会協同組合
- 活動地域：東京都大田区
- サイト：<https://oct-c.com/>

東京都大田区新田丸エリアでは、大規模な工場と中小の町工場が多く集まり、世界に誇る技術を持つ“モノづくり”のまちとして栄えてきました。しかし、近年は工場の海外進出や後継者不足から工場の閉鎖・移転が多くみられ、住宅へと建て替わり、まちの特徴である工場・技術が失われつつあります。

そこで、おおたの特徴であるものづくりをベースとしたまちづくりを「公（行政や公共の組織等）」×「民（民間企業・組合団体・区民等）」×「学（大学・学校・専門機関等）」の多主体が連携して進め、新たなモノづくりの力を生かして大田区の豊かな場づくりを進めています。活動内容としては、毎年行なっている「おおたオープンファクトリー（OOF）」での拠点企画に加え、今年から工場磨き上げプロジェクトと呼ばれる、学生による工場のさらなる魅力の掘り下げ・発信を行いました。また、月に一度の学生企画によるイベントも行い、工場のまちの魅力発信を行いました。学生企画のイベントでは、地域の道遊びの方とも共同でイベントを開催することができました。

今後は、おおたオープンファクトリーでのおおたのまちや工場の魅力の掘り下げを更に行い、大田区ならではの魅力あるまちづくりに取り組みたいと思います。また、他主体との連携などを通じて、地域で活動の場を広げていくことで、おおたクリエイティブタウン研究プロジェクトのさらなる発展を目指したいと思っています。



## データで捉える地域課題・地域経済プロジェクト2023

### Analyzing regional issues and economies based on data in



スポーツがもたらすものは



より活発な活動がもたらすものは、  
地域経済に与える影響は  
大きい。



### 経済学やデータの視点からみた社会の課題や現状

#### Current state and issues of local societies form economics and data analysis perspectives

- 学生：31名
- 担当教員：池島祥文, 居城琢
- 連携・協力：横浜市政策局, 関口昌幸様
- 活動地域：横浜市, 神奈川県

当プロジェクトでは、各グループに分かれて、地域の諸アクターとの連携を行いながらプロジェクトを運営してきました。多様な研究が行われている中で、様々な成果が出ており、それらを中間報告会や最終報告会の中で共有し、それぞれ各グループに持ち帰って意見交換をしながら進めています。

池島グループでは、横浜におけるサーキュラーエコノミーをとりあげ、その「循環」状況に関する実態調査を進めるとともに、観光地である箱根町を対象に、その観光業に特化した産業構造の特殊性を他地域との比較から析出したり、また、自治体の歳入構造について着目し、地域差からその課題を整理したりしています。既存データの分析にとどまらず、現地調査を通じてデータを創る取り組みを進めています。

居城グループでは、地域経済について自分の興味関心と様々な事象を関連付けテーマを作成し、学生が実際にアンケートや統計を取り考察を深めています。研究例としては、サッカーチームのサポーターや地方空港、音楽フェスティバル、テレビ番組の経済効果研究があげられます。ゼミ内では学生間でアドバイスし合うことで新しい手法や考察が生まれており各々の研究がより深まっています。

今年度の研究によって、様々な角度から社会の現状や課題をみることで、今後の研究の幅を広げることができました。来年度以降の研究では、今年度の研究で得られた結果や経験などを活用し、各グループで連携しながら取り組むことで、さらに良い研究につながると考えています。



## サコラボ

### Sacolabo



### 国大生と左近山のコラボでミライをデザインします。

#### We design the future in collaboration with Sakonyama community.

- 学生：24名（落合佑飛, 中村優真, 平田雄基, 年盛文也, 寺澤慶, 佐藤咲希, 富田涼太, 長岡稜太, 笹森遥, 南村紘, 寺田優衣, 竹中美裕, 青柳篤広, 澤口鈴穂, 佐藤信哉, 渡邊まるり, 山本莞太, 高木温, 安井圭, 塩野雄史, 岡宮愛, 榎田航太, 高橋夢菜, 奥野史歩, 松原稜)
- 担当教員：藤岡泰寛
- 連携・協力：NPO法人オールさこんやま(連携), 左近山ショッピングセンター・ケアプラザ(企画アドバイス等)
- 活動地域：左近山団地(横浜市旭区)
- SNS：X(旧Twitter) ID:@sacolabo\_danchi  
Instagram ID:@sacolabo.danchi2022\_ facebook ID:@sacolabo

相鉄線二俣川駅からバスで約15分の場所に広がる、「左近山団地」。商店街のお祭りや、小学生向けの地域イベントが毎月開催されるなど、地域活動の活発さが魅力な一方、47%にもぼる高齢化率などといった課題も抱えています。そんな左近山の地域活動をさらに盛り上げつつ、教育・福祉・防災などに関するイベントを企画し、小さいお子さんから高齢者の方まで、幅広い世代の住民の方々と「コラボ」しながら団地の魅力向上に取り組んでいます。

今年度は、団地内部に新たなエンターテインメントを生み出すべく、映画の自主上映を行う「団地映画祭」や、地域のお祭りで手作りの窯でピザを焼き、その窯を非常時の炊き出しにも役立てられるよう訓練も行う「ピザ窯ワークショップ」、小・中学生と交流しつつ、勉強などさまざまな相談に乗り団地内での教育環境の充実を図る「さくら教室」などを行いました。また、地域主催の小学生向けイベント「日曜ほっと」にも参画し、ハロウィンやクリスマスなど季節に応じた企画を実施しました。

団地に実際に居住して活動している学生もおり、外から左近山に通っている学生とともに内外両方の視点から地域課題を見つけ、アイデアを生み出し、実際の活動に活かしています。また似顔絵や移動式サウナの設計など、「得意」としていることを左近山にメンバーが自発的に持ち込み、地域に還元しているのも特徴です。

地域活動の活発さや、豊かな屋外空間といった左近山の魅力を活かしたイベントを開催し、団地内外のさらに多くの人が地域の魅力に気づき、愛着を抱くようになることを目指しています。また、地域の方々と交流しながらイベントを楽しむことで、学生自身も左近山を「帰ってきたい居場所」と思えるようになるような活動を心がけ、左近山団地の継続的な発展に貢献していきます。



## 里山コミュニティデザイン Satoyama Community Design



里山コミュニティデザイン

### 里地里山を拠点に、 人間と生物にとってより心地よい居場所の創造 Creation of more comfortable location of humans and other living creatures based on satochi-satoyama

- 学生：21名（久保蒼生，中村心寧，山内葵，松本三千尋，松嶋瑞穂，大橋明日香，鈴木海帆，吉田涼香，長田拓之，武内那岐，西川聖哲，内野文敬，佐藤愛弥，戸澤玄，大島淳史，千葉美衣菜，松栄凛也，山口暖乃，高野素子，福田優菜，原田悠妃）
- 担当教員：佐藤峰，倉田薫子
- 連携・協力：花咲く里山（南足柄）
- 活動地域：横浜国立大学，南足柄市
- サイト：<https://satoyama-esd.ynu.ac.jp/?p=465>

横浜国立大学と言えば？と質問されたら、多くの学生が緑や森といった自然に関する回答するでしょう。このように横浜国立大学の自然は学生にとってシンボリック的存在だと認識されています。しかしながら、学内の自然と人は互いに独立しながら、その営みを発展させているのではないのでしょうか。そこで、学内の自然という足元にある里地里山の資源を生かし、人と生物、自然にとってより心地よく、楽しい居場所にするために、様々な方針策定、思考をすることが本活動の目的としました。

まず、国大内の自然を細分化し、私たちが活動する拠点を「竹林」と決定しました。竹林整備をしながら、南足柄市にある「花咲く里山」の方々に協力していただき、学生が本場の里山整備を体験しました。横浜国大と花咲く里山での経験を往還させ、自然を整備することへの理解を深めました。その後、廃材を用いた流しそうめん大会の実施、常盤祭出店に伴う竹箸作りや楽器作り、小学生を招待して開催したESDワークショップの企画材料など、多方面への竹の有効活用を見出すことができました。

上記で、人と生物、自然にとってより心地よく楽しい居場所を創造することを目的としていましたが、今年度の活動では実現されることはありませんでした。理由は伐採した竹を放置しておくと腐ってしまうため、廃材となった竹の有効活用を優先して、本プロジェクトの活動としたことがあげられます。そのため、今後の活動では自然の利活用だけでなく、人と自然が共存する空間創造にも力をいれていきたいです。現時点での案として、竹林に茶室を作ることが挙がっています。興味のある方はぜひ参加してください。



## ローカルなマテリアルのデザイン The Design for Local Materials



### 広葉樹を用いた家具・スツールの製作 Designing furniture and stools with broad-leaves trees

- 学生：9名（稲永拓真，鈴木拓弥，岩佐達樹，岩屋亜海，梅根悟嗣，追分美希，是村颯太，豊田亜美，花岡将真）
- 担当教員：志村真紀，原口健一
- 連携・協力：太田クリエイティブタウンセンター，関鉄工所，寺田倉庫，河端昌也教授，（株）木材工房あしがら
- 活動地域：横浜国立大学キャンパス内/羽沢地区/神奈川県
- サイト：Instagram：タグ「#ローカルなマテリアルpj」

広葉樹は樹種および各樹木により形が異なり、硬く加工が難しいため、現代社会において有効活用がなされにくいという現状があります。このプロジェクトでは、広葉樹を用いた制作活動を通して、里山の広葉樹を上手に活用する方法を研究しています。

今年度は昨年度から引き続き2024年10月完成予定の羽沢横国大駅前に建設中の羽沢リビオタワー内に設置される横浜国立大学羽沢サテライトキャンパスの什器製作を行いました。現在椅子6脚と大机のデザイン並びに製作を行っています。1年生は椅子を、3年生は大机を担当しています。具体的な活動としては、昨年度制作した椅子（写真右下）の仕上げを行った後、椅子の座面となる木材の鉋かけ加工を原口先生が管理する工房で行いました。大机は、サテライトキャンパスにおける配置からデザインし、その後天板の細かいデザインを進めてきました。そして、椅子並び大机の大まかなデザインが決定してからはどちらも脚部のデザインを決めるべく話し合いを進めました。また、安全に使用できるかどうかの構造計算の方法を構造専門の河端先生にご指導いただきました。11月にはリビオタワーをデザインしている寺田倉庫さんと一緒にさせていただき、建設途中の設置予定地を訪れました。また、左の写真の一部は夏休みに参加した南足柄市の製材所における製材所ワークショップです。木材加工の現場を見学し、丸太を切った直後の木くずの香りを嗅ぐなど貴重な経験をさせていただきました。

1月のZOOM会議を通して、太田クリエイティブタウンセンターを通じて紹介してもらった関鉄工所さんに椅子並び大机の脚部の制作を依頼することとなりました。2月には関鉄工所さんと協力して脚部の最終的なディテールデザインを決定させ、羽沢リビオタワーの内装工事に間に合わせるため9月までに完成、搬入を目指していきます。



## まちに開いた交流の場のデザイン—YOKOCO— Designing a place for exchange open to the community



1. 6.7. キャンドルナイト  
2. ランプシェードワークショップ  
3. 和菓子＆茶道体験会  
4. 出張DIY完成写真  
5. 野毛山新聞

### 住宅地の価値を上げる Increasing the value of residential property

- 学生：16名（山田伸希，石津心之輔，今野偉吹，室本剛志，音喜多顕大，新井希緒，伊藤空翔，大島健太，小見壯也，土山実希，西山日々希，他）
- 担当教員：江口亨
- 連携・協力：NPO法人Connection of the Children
- 活動地域：野毛山，東ヶ丘
- サイト：<https://www.coc-i.org/>

YOKOCOは野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」で活動しています。その場の使い方の提案や、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指しています。

地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するのではなく、その中間の方法を模索しています。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学ぶことを目標としています。

昨年度からメンバーの1人が管理人として住み、より密接にカサコの活動に携わり、DIYや毎月出版している野毛山新聞の編集、その他イベントの運営などをしてきました。DIYでは、縁側や本棚を作った経験を元に、casacoから飛び出て近所の方のDIYを募集し、夏に完成しました。野毛山新聞では一年生を中心に野毛エリアをリサーチし、近所の方も知らなかった野毛山を発信することを目標に発行しました。イベントとしては夏休みに実施した夏祭りやランプシェードワークショップ、12月に行われたキャンドルナイトの企画、運営に携わり、多くの地域の方々に参加していただき、地域交流拠点としての存在価値を改めて実感しました。

今後は、現在進行中の出張DIYの施工を3月に行う予定です。また今年度は、YOKOCOがCASACOにより密に関わり始めた最初の年でした。そのため、それぞれの活動が手探り状態で課題も多く見受けられました。来年度はこの課題をYOKOCO内で議論し合い、ただ伝統を継承したり不足を補ったりするのではなく、YOKOCOとしてCASACOに問題提起、提案をしていけたらと考えています。



## みなとまちプロジェクト The Port City Project



### 清水の歴史文化に関わる地域資源のブランディング Branding Shimizu's history with local resources

- 学生：9名（山口大輔，廣瀬亜紀，武藤有花，岡田秀永，中田由希，佐賀淳基，松本真羽，矢野誠悟，中根遼）
- 担当教員：志村真紀
- 連携・協力：常葉大学，東京大学，九州大学，茨城大学，静岡理科大学，静岡市経済局海洋文化都市推進本部，静岡県清水港管理局，ぬくもり園，次郎長と港を活かした清水活性化協議会，伊豆石文化研究会
- 活動地域：静岡県静岡市清水区
- サイト：<https://www.ynu-minatomachipj.com/>

みなとまちプロジェクトは、横浜と同じ港町である静岡市清水区の歴史文化に関わる地域資源をブランディングするために活動を行っているプロジェクトです。清水は横浜と同じ国際貿易港であり、近年ではクルーズ船の寄港地にも選ばれ、国内外から多くの観光客が来ていますが、清水を經由して他所へ観光に行く人が多い状況があります。そこで、清水港の発展に寄与した地域資源として、お茶、伊豆石、清水次郎長、倉庫群、港湾線、富士山をブランディング・エッセンスとして位置づけ、横浜の学生という外部の視点から清水のまちを盛り上げるべく、まちづくり活動を行っています。

今年度はコロナ禍による活動制限が緩和されたため、対面での活動機会を増やしつつ、昨年度は行えなかった活動の拡充を図りました。清水には5月・8月・12月と3度訪問しており、8月には学生たちで実際に手揉み茶の製茶作業を体験し、地域特有かつ伝統的である手揉み茶の文化の重みについて再確認しました。5月および12月には、次郎長商店街をはじめとした清水のまちや博物館を巡り、清水の歴史や現況について理解を深めました。大学の文化祭では昨年度も行った、学生によってブランディングされた茶葉の販売だけでなく、学生が製茶した手揉み茶も実際に飲める形にして提供しました。また、他大学の学生より茶葉を輸出する際に用いられていた蘭字ラベルを活用したまちおこしについて提案を受けており、具体的なあり方について検討しました。

今後は、引き続き蘭字ラベルを活用したまちの活性化を実現するために現地との調整を行いつつ、清水の地域資源について町の内外へ発信していけるよう、より一層取り組んでいきます。



## ワダヨコ Wadayoko



### 和田町で、人と人との、今と未来との架け橋になる Become a bridge between people, now and in the future in Wada area

- 学生：27名（佐藤めぐみ、ソジファン、渡由貴、粕谷貴貴、堀雅也、井澤葵美、伊藤幸哉、海野萌、大野倫、河崎蒼依、後藤陸、平美優、中原船登、宮下莉奈、山下虎太郎、山崎優子、山本純也、有倉直哉、池田萌夏、乾大和、河口紗香、佐々木遼太、瀧本早蘭、福島瑞穂、星野良太、三村涼葉、八坂麟太郎）
- 担当教員：野原卓、尹莊植
- 連携・協力：和田西部町内会、和田町商店街、和田西部第一子供会、NPO法人居場所そら
- 活動地域：和田町周辺（主に保土ヶ谷区和田）
- サイト：http://wadayoko2010.com Twitter:@wadayoko\_twi Instagram:@wadayoko\_

2010年から続く、現在の地域課題実習の中で2番目に古い学生団体です。当初は町の拠点である旧町内会館を1年間かけてリノベーションするために成立しましたが、その場所を利用する中で様々な人との交流が増え、町の団体と協力してイベントを実施するようになりました。今では、和田町（保土ヶ谷区和田周辺）の魅力を見つけて周知しながら、学生と町の人たちが互いに支えあう地域をつくることを目的として活動しています。

町の公園や小学校で、子供たちを楽しみながら防災について学んでもらう防災フェアや、各出店者が自慢の品を持ち寄るべっぴんマーケット、季節のお祭りや行事など、様々なイベントの主催や共催をしました。今年度は、コロナ禍が明け開催の規模が拡大したこと併せてメンバー数が増加したことで、学生ならではの視点で新しい企画を提案したり、若い力で運営に大きく貢献したりすることができました。ワダヨコ、町内会、商店街、教授で行う定例会議「和田町タウンマネジメント協議会」にも毎月参加し、組織を横断した情報共有や協力の活性化のサポートに努めました。また、和田町で親しまれ続けるゆるキャラ「和丸」のプロデューサーとして、修繕やグッズ作りにも取り組みました。

年間を通して行ったイベントには、コロナ禍を乗り越えて数年ぶりの開催となったものが多くありました。将来に繋げていく力のある学生団体として、これらを楽しみにしている人たちのために長きに渡って大切に受け継いでいこうと思います。そして、今年度新たに繋げることができた方たちとの関わり方も積極的に模索しながら、和田町周辺でのフィールドをさらに増やし、より広く密接な交流をしていきたいと考えています。



## ハマの屋台プロジェクト YNU Wagon Project



### 移動式屋台で人とまちをつなぐ Connecting People and the Community with Mobile Wagon

- 学生：30名（三浦萌夕、奥村真妃、尾崎龍樹、梶遼太郎、齋藤佳奈、平原裕大、大木諒音、佐藤那津、田中もも、安宅建人、樫本和奏、内村姫那、川口南、竹永怜生、前田菜々子、磯崎碧、草深篤志、小藪有紗、後藤理紗、酒井大輝、中野洗、佐藤美宇、高尾諭良、土田英尚、西村心、船田果鈴、池田萌夏、石井海己、坂本早翼、伊藤悠真）
- 担当教員：野原卓
- 連携・協力：常盤台地区連合町内会、住好自治会、Circular Yokohama (qlaytion gallery)、(一社)横浜青年会議所
- 活動地域：主に常盤台地区、関内・関外エリア
- サイト：http://www.instagram.com/hama\_yataipj/

ハマの屋台プロジェクトでは、まちの賑わいを生み出すツール「ほどわごん」の提案以来、活動地域の需要や状況に合わせた移動式屋台の製作と運用を行ってきました。

今年度は常盤台地区と関内・関外地区の活動を継続しつつ、他地域にも活動を展開してきました。これまでは、常盤台では「ほどわごん3号機」、関内・関外では「かんないわごん」と地域で屋台を使い分けて活動してきましたが、それぞれの強みが異なることから、地域ではなく場面に応じて屋台を使い分ける・併用するという新たな活動スタイルにも挑戦しました。コンパクトなほどわごんは物の販売用、ユニークな形のかんないわごんは滞留空間として使ってもらえることが多く、屋台を通じて人々の豊かな活動を興すヒントが得られました。

常盤台では、納涼盆踊りやワイワイ文化祭りへの出展を通じて、自治会の皆様との連携を深めつつ、子供たちにも楽しんでもらいました。ミニゲームやマッピングワークショップを同時に実施することで、学生と地域住民の交流やまちの魅力の再発見にも繋がりました。また、学内ではアグリッジプロジェクトやお弁当販売とのコラボ企画を実施しました。関内では、さくらテラスへの出展により関内らしいクリエイティブな体験を創出しました。他団体の可動式空間とともに場づくりをすることで、相互作用の中で生まれるかんないわごんの価値を発見できました。2月にはYOXO FESTIVALに出展予定で、健康に過ごせる広場の在り方について、屋台を活用しながらワークショップを開催します。他地域では、根岸公園のハロウィンイベントへの出展や星天qlayへの常設展示により、賑わいや滞留空間の創出に貢献しました。

今後は、常盤台では、ほどわごん4号機の製作を見据え、フィールド調査や住民の皆様との意見交換を進めます。関内では、かんないわごんをより日常的に活用してもらうための施策を検討していきます。



## 南米農村部での学びを生かした横浜「共生」プロジェクト Yokohama "kyousei" project



**参加人数・開催頻度ともに去年より増加  
笹山団地での子どもの居場所作り  
Both the number of participants and  
frequency of events increased from last year,  
creating a "place" for children in Sasayama Danchi.**

- 学生：14名（本藤理子, 杉江つくし, 入江ひなた, 片桐綾乃, 根岸佳奈, 奥山琴音, 湯本莉衣, 北村あすか, 森結希乃, 重村ななは, 中谷笑理, 中島ちなつ, 橋本真, 橋口奈奈緒）
- 担当教員：藤掛洋子
- 連携・協力：認定特活ミタイ・ミタクニヤ子ども基金, ベネッセ子ども基金, かなとも基金, 橋ライオンズクラブ, 横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ, 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会, 県営笹山団地自治会, 笹山地区社会福祉協議会, 神奈川県, 渡邊敏彦様, 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社, 株式会社ジャンボリア, 日本ウイナー株式会社, 保土ヶ谷区子ども福祉支援課, 笹山保育園, 上菅田地域プラザ
- 活動地域：神奈川県営住宅「笹山団地」
- サイト：FaceBookページ <https://www.facebook.com/ynu.mitaimitakunai>

本活動は、2020年から認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金（以下、ミタイ基金）と横浜国立大学の地域課題実習、上菅田地域の各アクターと連携して実施しています。

活動目的は、複数のアクターが緩やかに連携することから、地域の子どもたちが集まる空間を作り、不登校や外国にルーツを持つ子どもたちも含め、子どもたちがありのままの自分になれる場所を提供することです。

笹山団地102号室を毎週土曜日10-12時で開放し、笹山団地や近隣に住む子どもたち（不登校や外国にルーツを持つ子どもも含む）に対し、

- ①横浜国立大学学生他による食事（お弁当や軽食）の提供（月1回）
  - ②大学生ボランティアによる宿題や自主学習教材などの子どもたちの希望する学習支援
  - ③勉強以外の、遊びや自分達のやりたいことを行うことの支援
  - ④大学生スタッフの大学での学びを生かした、多文化共生や季節のイベントのイベント・ワークショップの開催
- を行っています。以上を通し、学年を問わず地域の子どもたちを受け入れています。

現在、5~10人の子どもが毎週参加していますが、団地の子どもや外国にルーツを持つ子どもの継続参加には課題が残っています。言語や宗教による食文化の違い、保護者の方の理解などの要因を探っている段階です。調査を踏まえ、来年度は子どもが団地内からも継続的に通ってもらえるような場所にしていきたいです。また、多文化共生について伝える機会を増やして、すべての子どもたちが豊かで笑顔あふれる生活を送れるよう活動していきます。



## Yokohama Univer-City (YUC)



**キャンパスデザインとコミュニティ創出によって  
「大学をまちに開く」**

**Open our university to the city, by designing for  
campus and creating communities.**

- 学生：14名（井上彩子, 木崎拓実, 佐藤さくら, 柴田夕奈, 日比野莉良, 山下優輝, 佐武真之介, 富樫悠也, 中原船登, 日向野温, 廣田慎一郎, 中園拓也, 夏目朱理, 八坂麟太郎）
- 担当教員：三浦倫平
- 連携・協力：都市科学部, 常盤台地区連合町内会/常盤台地区社会福祉協議会, 共育会
- 活動地域：横国大常盤台キャンパス周辺, 都市科学部棟104スタジオ, 横浜市常盤台コミュニティハウス
- サイト：<https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city>  
[https://twitter.com/104ura\\_pj\\_YNU](https://twitter.com/104ura_pj_YNU)

YUCは、「大学をまちに開く」をテーマに始まった学生主導型プロジェクトです。都市圏の貴重な自然が保護された横国大のキャンパスでは、多様な人々による積極的な交流がなされています。YUCは、この魅力的なキャンパスを中心に新たなコミュニティの創出や空間デザインの提案・実践を行ってきました。大学から地域全体の価値を高めた先にあるものとして、「Univer-City」という言葉を掲げています。

ほぼ全ての活動は、所属メンバーの自主的な企画・提案によって進められてきました。学内では、都市科学部と協働体制のもと、まちづくりで実用化されているプレイスメイキングの手法を用いた実証実験をもとに、都市科学部講義棟エントランス空間の機能改善を模索しています。また、本・黒板を介して見知らぬ人同士の繋がりを生む企画を実施し、大学の新しい利用方法の提示やコミュニティ空間の創出を行い、キャンパスの魅力向上を目指しています。

地域連携においては、大学への理解を深めてもらう機会として小学生向けのキャンパスツアーの開催、学生と地域の方々の交流促進及び地域施設の認知度向上と利用促進のためのワークショップの開催企画を行い、これまで地域の方々と築いたつながりをさらに深められました。さらに、地域課題実習と常盤台地域の情報を知ることができる情報誌「ときわだい掲示板」を他の地域課題実習と連携して作成、常盤祭にて配布し、多くの方に手に取っていただけただことで、地域課題実習と常盤台地域に関心を持っていただける機会を作り出しました。

今後は他の地域課題実習との連携強化など学生同士のつながりをよりいっそう深めることはもちろん、地域住民や大学運営との連携・協力関係をより一層強固なものにしていきます。そのうえで企画の対象者を拡大し、キャンパスだけでなく横浜中心市街地などにも活動範囲を広げ、様々な企画を実践していく予定です。



## 再生可能エネルギー経済循環プロジェクト Circular Eco Project



### 循環経済×循環資源 Circular Economy and Ecology

- 学生：7名（藤尾 好太郎, 江川海人, 楯洋行, 唐牛凌我, 坂本葵, 杉本真菜, 平井沙良）
- 担当教員：山崎満広
- 連携・協力：南砺市エコビレッジ推進課, なんとエナジー
- 活動地域：富山県南砺市
- サイト：<https://circular-eco.wixsite.com/webside>

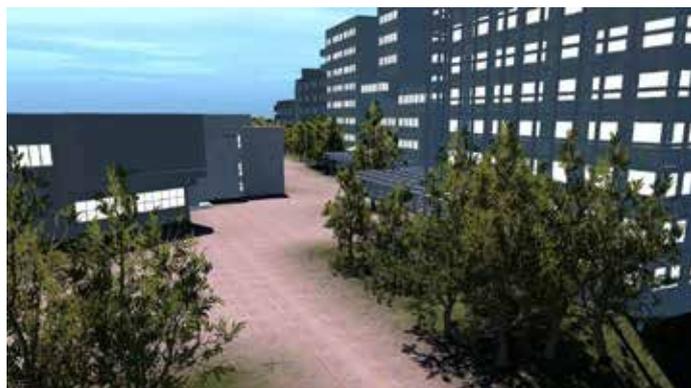
地域経済循環の停滞が進む中、その解決に向けて、エネルギーや地域資源が大きな鍵となります。昨年度に引き続き、富山県南砺市エコビレッジ推進課、なんとエナジーと協力し、再生可能エネルギー、特に南砺市が力を入れている木質ペレットの活用、普及を通して地域内経済循環を目指します。

富山県南砺市エコビレッジ推進課とのオンラインミーティングや事前調査により、南砺市の自然素材やエコビレッジ構想について学んだのち、夏季休業期間に南砺市を訪問しました。南砺市における太陽光パネルのアンケート調査や工場見学等による木質ペレットの実態把握、「南砺市いなみ国際木彫刻キャンプ」での運営補佐、その他南砺市の文化を把握しました。その後、太陽光発電の需要や可能性について、分析・考察を行いました。木質ペレットについても、その課題を把握し、今後の展望を構想しました。再生可能エネルギーとして木質ペレットを利用していく際の大きな課題の一つである、燃焼灰の処理に着目し、「燃焼灰の活用法」を南砺市エコビレッジ推進課に提案しました。南砺市内のデパートで行われる、南砺市役所による木質ペレットのPR活動に、資料の展示という形式で参加させていただくことになりました。また、南砺市の文化のPRや、それら文化を取り入れた地域内経済循環についても構想を練っています。

このプロジェクトとしての活動は終わってしまっていますが、このPJで学んだことを活かし、地域資源の循環を通じた地域経済の活性化について考えていきます。



## 横国VRキャンパスプロジェクト YNU VR Campus Project



誰もが自由に関われる大学を目指し、  
キャンパスをVR化しています  
Aiming to be a university  
where everyone can freely interact,  
we are transforming the campus into VR.

- 学生：5名（梅澤希, 青砥陸, 安田周世, 田中大志, 上田直弥）
- 担当教員：為近恵美
- 活動地域：横浜国立大学
- サイト：<https://vrynu.com>

新型コロナウイルス感染症の5類指定以降、一度はオンライン中心となった社会は元に戻りつつあります。しかし、再び社会が感染症などの脅威にさらされることが無いと言い切れません。また、オンラインには例えば場所や時間を選ばないという良さがあり、今後残っていくと考えられます。しかし、オンライン会議などでは実際に会って話すようにはいかず体験の質には課題があります。本プロジェクトでは、VRを活用してオンラインと対面での体験の質の差を縮めることを目指しています。特に、研究や教育の場での活用を目指しています。また、現実のキャンパスで実現することが難しいことでもVR空間上なら自由な発想で実現できるという点や、遠い場所に住む方や障がいを持っている方など横浜国立大学を訪れることが難しい人でもキャンパスを体験できるという点もこのプロジェクトの強みです。

6月に開催された都市科学部オープンキャンパスでは参加者にVRゴーグルを装着してもらい、VRキャンパスを見学してもらいました。9月には東京ゲームショウを見学し、最新のVR関連技術への知見を広めプロジェクトの今後の展望を検討しました。本プロジェクトは国土交通省が主導する3D都市モデルオープンデータ化プロジェクト「PLATEAU」をベースにしており、PLATEAU AWARD 2023への応募を目標としたキャンパス内の建物のモデリングとブラッシュアップを行いました。

これまでは、建物のモデリングを通してクオリティを上げることに主軸を置いていました。今後は、VRのキャンパスを活用して様々な企画を行っていきたいと考えています。学内の各機関や研究室などとの連携を模索していきたく思います。



## キャンパスUDプロジェクト Campus UD Project



「通れる」だけでなく「通りたくなる」  
「立ち寄りたくなる」場所づくりを考える  
Thinking about creating a place not only "passable"  
but also "want to pass by"  
and "want to stay for a while"

- 学生：10名（梶井康平, 伊藤礼佳, 高井優紀, 早川葵, 伊藤麻衣, 橋本杜, 大久保春香, 小杉実穂, 古田倫太郎, 森慧悟）
- 担当教員：藤岡泰寛, 大原一興
- 連携・協力：施設部, 障がい学生支援室
- 活動地域：横浜国立大学キャンパス（Sガーデン周辺）

私たちは車いすユーザーも、そうでない人も大人も子どもも皆で一緒に心地よく過ごすことのできる空間づくりに取り組んでいます。昨年度に引き続き、横浜国立大のローソン前のスロープ周辺環境改善に取り組み、「通れる場所」から「通りたくなる場所」へ、さらに「立ち寄りたくなる場所」となるデザインを考えました。

①立て看板の撤去（継続）…看板のせいでスロープ手すりが使いにくいという声があったので撤去された状態を引き続き維持されるようお願いしました。

②花壇の整備、植え付け…前年度植えた12種類の花のなかで「キャットテール」が今年も鮮やかな花をつけてくれました。横国の土や日照条件などに合っているようです。そこで、今年はキャットテールの植え付け範囲を拡大し、加えて、食べられる植物（春の七草）を植えてエディブルガーデンの可能性も検証しました。

③ガーランドの設置…今年もクリスマス前にガーランドと小規模なイルミネーションを設置しました。

④ふらりとプロジェクトとの連携強化…②③の取り組みを中心に、大学院生のグループと連携を強化し、スロープ周辺だけでなくローソン前の広場も含めて一帯が楽しく思わず立ち寄りたくなる環境となるよう工夫しました。

花壇の整備、植え付けによって周辺地域の方々から、「通りやすくなった。」「きれいになった。」などのお声をいただきました。プロジェクトを通じて、「通れる」だけでなく「通りたくなる」「立ち寄りたくなる」場所づくりがUDにとってとても大事であることがわかりました。今後もより楽しい場所づくりへの発展が期待されます。

## 地域実践アワード

## Award

地域実践アワードは、毎年年度末に開催される「地域連携シンポジウム」の第1部において、地域課題実習の各プロジェクトの発表を踏まえて、シンポジウムにご参加・ご視聴頂いた皆様により投票を行い、賞を創出しているものです。

各賞は、下記のように選出されます。

- ・ MVP・準 MVP：総合投票サイトから投票頂いた「全体の総数」
- ・ 校友会賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生以外」の総数
- ・ 学生賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生」による総数
- ・ 地域賞：地域賞限定の投票サイトを通じた「総数および評価点」

シンポジウムの様子は、地域実践教育研究センターのYouTubeチャンネルにおいてアーカイブ動画となっています。

チャンネル名

- MVP -

アグリッジプロジェクト

- 準 MVP -

サコラボ

- 校友会賞 -

転倒しない街共創ラボ

- 学生賞 -

横国 VR キャンパスプロジェクト

- 地域賞 -

岩手らばーず

## Topic 「おだわらデジコン城下町」 コンテストにて優秀賞を受賞

モビリティ・デザインの実践：白岩元彦、宮内爽太

小田原市において、令和5年11月3日に「おだわらデジコン城下町（全国学生デジタルまちづくりコンテスト 2023 in ODAWARA）」最終審査会が開催されました。このコンテストは、学生の自由な発想に基づくデジタル技術を駆使したアイデアを募り、小田原市の地域課題解決や経済活性化、Well-being向上、そしてデジタル人材の育成を目指しています。

地域課題実習「モビリティ・デザインの実践」に所属する白岩元彦さんと宮内爽太さんは、小田原城周辺の課題を移動動態データから指摘し、地域全体の魅力を来訪者に伝えるためのモビリティ向上策を提案し、優秀賞を受賞しました。

彼らは「このコンテストを通じて、地域課題実習で培ったアプローチが他の地域に対しても有効であるとの認識を得るとともに、実社会とのつながりを実感できました。」と語っています。



## Topic 韓国・大邱大学との発表・交流会

韓国では、首都一局集中による地方における若者の流出をはじめ、高齢化、少子化、人口減少の課題が進行しています。韓国の内陸部にある大邱大学においても、地域と大学の連携を通じた多角的な取り組みが模索されている中で、新聞や論文等を通じて「地域実践教育研究センター」の活動を知り、大変感銘を受けた、とのことでした。

特に、学生たちが「地域課題実習」という正規教育課程を通じてまちづくりプロジェクトを進め、大きな成果を上げたという内容は、韓国が参考にすべき優秀な取り組みであると実感され、「地域実践教育研究センター」および「地域課題実習」の取り組みについて訪問し知りたい、とのことでした。

そこで、1月に教職員7名、学生27名の計34名が来学し、双方の大学から発表を行い、とても良い交流機会となりました。

2025年から大邱大学では周辺自治体と大学が協力して地方大学活性化事業（政府事業「RIZE事業」）を創出していく計画にあり、「スマートモビリティ」、「先端農生命」、「ヒューマンライフケア」の3分野、計11学科を中心に推進していくとのことでした。



## Topic 横浜ケーブルビジョン (YCV) との連携 「ヨココクTV～地域へトビダセ～」

横浜ケーブルビジョン (YCV) との連携により、新番組「ヨココクTV」が立ち上がりました。3月16・17日に放映される初回の番組は、副タイトルを「～地域へトビダセ～」と題し、地域課題実習でアワードを受賞したアグリッジPJ、サコラボPJ、転ばない街共創ラボが発表し、久保春菜さんが司会進行をつとめました。

今回の番組の企画内容は、約1年をかけて学生有志（清水翼さん、池田優さん、久保春菜さん）による「シンポジウム実行委員会」が、YCVのスタッフの皆さんと検討してきたものです。エンディング・ソングには南米パラグアイで活動する駒井佑作さんが制作した「TE AMO」が起用されました。



## Topic 地域課題実習 20周年を迎えます



2004年の後期（秋学期）から開講した「地域課題実習」が、2024年の秋におかげさまで20周年を迎えます。

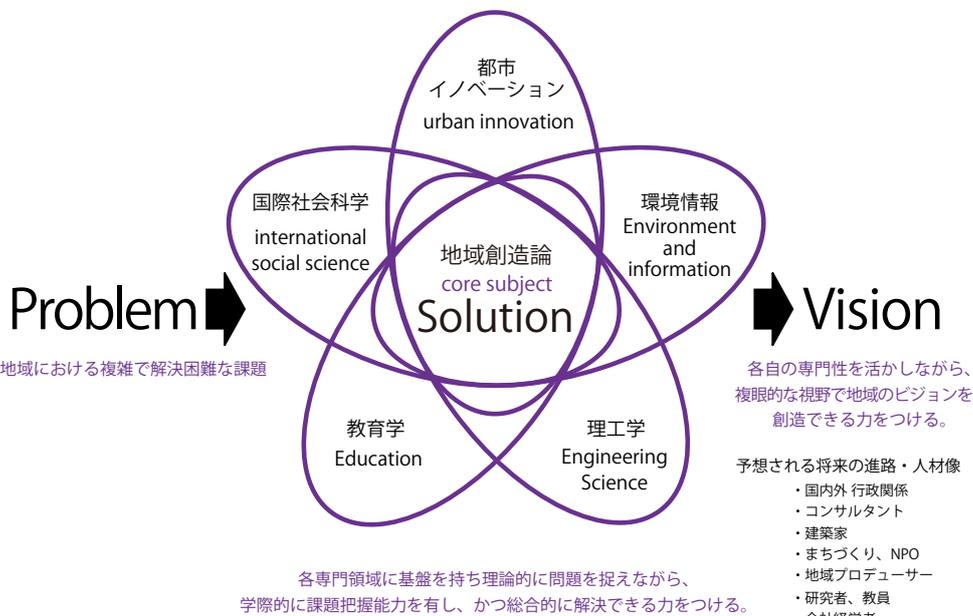
当アニュアルレポートの3ページに掲載しているグラフ：「2004年からの地域課題実習の各プロジェクトの実施（継続）年度」からもわかるように、初年度は7プロジェクト（PJ）から始まり、現在に至るにあたり多くのプロジェクトが各地域で活動をしてきました。

多くの方からご愛顧頂いた地域課題実習が、今後も発展していきますよう、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## ■ 地域創造科目について / About this program

大学院生を対象とした副専攻プログラム「地域創造科目」は、「複雑で解決困難な地域課題を題材に、各専門分野の活かし方を発見し開拓するプログラム」です。2012年度から開講しました。

Towards complex, intractable community issues, this program takes a theoretical approach from the individual fields of expertise, and is a sophisticated educational program which aims to produce individuals who possess the ability to appraise issues from an interdisciplinary approach and propose comprehensive solutions.



## ■ コア科目：地域創造論 / Globalized Local Studies テーマ：「2050年までをシミュレーションし、創造する。」

地域創造論のテーマは3カ年ほど毎に設定し、これまでに「ポスト 3.11 の新しい地域像」、「ローカルからの発想が日本を変える、世界を変える。」、「地域はどう変わるか 2010年代から 2020年代に向かって」、「次世代の横浜・神奈川地域を素描する」としてきました。2023年度からは、「2050年までをシミュレーションし、創造する。」をテーマとして、2050年を「鮮やかに創造」できるようになるよう、「客観的な分析を通じたシミュレーション力」と「学際的な視点や知識を融合した創造力」を養うことを目標として、各講義とグループワークを実施しています。前半においては各専門の観点から地域課題を学び、後半は学生が学際的なチームに分かれてグループワークを行い、新しい地域創造に向けた提案・提言を行っています。

## ■ 講義



ポートランドに学ぶ地球本位のこれからの都市づくり  
山崎満広



「ゼロからの『資本論』」を読んで  
志村真紀+池島祥文



都市のプランニング・メソドロジー  
矢吹剣一



人生 100 年時代のつながりづくり  
関ふ佐子



途上国の都市を整備するーインフラとローカルコモンズ  
三木はる香



これからの時代に向けて考えたいこと  
岡部友彦

## ■グループワーク / Group Works

### つづきベジネットワーク ～横浜市都筑区の農と暮らしの2050年までをシミュレーションし、創造する～

小山 萌絵・仲才 香鈴（都市イノベーション）、鈴木 海帆（環境情報）、野村 忠司（先進実践学館）

都筑区の農と暮らしにフォーカスし、子育て環境や自然の豊かさを求め、港北ニュータウンに転居した子育て家族を主人公に設定し、2050年までのライフスタイルに寄り添ったシミュレーションを提案した。

都筑区の人口は2050年までは維持する一方で、高齢化率は2050年には33.6%と顕著に上昇する。また、子育て環境は育児・保育施設が充実も、4歳児以上のソフト面のサポートは不十分である。自治会加入率が横浜市内で最低となっており、近所づきあいも少なく、コミュニティが未整備である。

都筑区は(1)都心と横浜市への利便性が高く、(2)横浜随一の農地面積があり（横浜市農地の20%）、(3)グリーンマトリックスシステムで約90haの自然を保全しているという特徴がある。

以上から、都筑の農業を活かし、「つづきベジネットワーク」と題し、全世代向け年間「栽培～収穫～調理～食事+環境教育ワークショップ」プログラムでの「人の交流」「環境教育」の提供を提案する。このプログラムにより、ママの地域内コミュニティの創出および子育ての不安を解消することが可能となる。また、定年後に地域での居場所が見出しにくい場合は、本プログラムの独自資格制度を活用することで、セカンドキャリアとして地域活動への参画が期待される。そして子どもたちは住みよい都筑に居住継続の将来図を描き出すことが可能となる。

年	モデル家族構成	ライフステージに 対応したニーズ	プログラム参加による 期待される効果
2024年	夫36歳、妻34歳 長子3歳、次子0歳	夫婦：安心子育て	地域内の子育て コミュニティの形成
2034年	夫46歳、妻44歳 長子13歳、次子10歳	夫：子どもが育つまで 妻：育児負担の軽減 子ども：自然・農業体験	自然に親しんだ生活による ストレス改善
2040年	夫52歳、妻50歳 長子19歳、次子16歳	夫：セカンドキャリアを 地域内で探す 妻：子育てが終わった新しい生活の 切り替え支援 子ども：農業体験活動 アルバイト	会社以外でのやりがい獲得 ライフワークバランス向上
2050年	夫62歳、妻60歳 長子29歳、次子26歳	夫婦：地域貢献 子ども：暮らしへの満足	子育て支援・NPO参加等 農業以外の地域参画へ
2050年 （≒2066年）	夫67歳、妻65歳 長子34歳、次子31歳 孫3歳	夫婦：地域貢献の継続 子ども：孫の安心子育て	子ども世代の 子育てコミュニティの形成

### 林業のまち「秋田」を創る

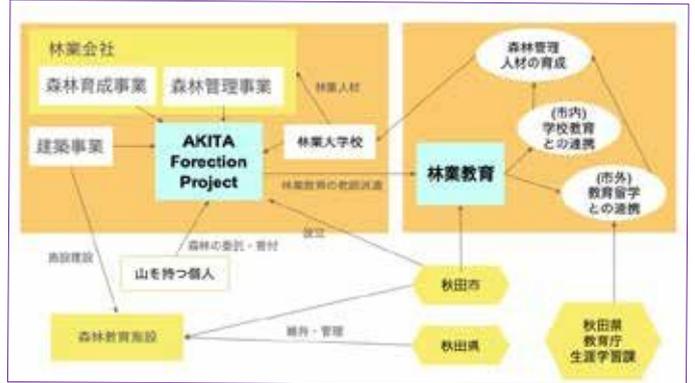
伊東 陽菜・平井 康葉・矢野 敦之・山口 大輔（都市イノベーション）、勝亦 弦揮（先進実践学館）

我々は「秋田市を林業の街として発展させ、秋田市民のシビックプライドを醸成すること」を2050年の目標と定めた。秋田市の特徴として、子供の学力が日本一高いこと、林業が盛んでありながら林業人口が減少していることが挙げられる。これらを踏まえ、林業という業界の働きやすさを向上させるとともに教育に林業を取り込んで林業人口を増やすことを基本方針とした。

前者の働きやすさについて、Akita Forection Project(以下AFP)を提案した。AFPは秋田市が運営するプラットフォームであり、林業系企業、設計事務所、建設企業、教育機関などが参画する想定である。AFP内では人材異動を自由化することで職種選択が容易になるほか、資材調達の手軽化により輸送コストや中抜きを避けられる。やりたい仕事に就きやすいため仕事楽しくなり、コスト削減も実現できる。

後者の林業教育について、まず既存の林業大学校で森林の管理を学べる制度を整えることで、林業にホワイトカラー的な面からアプローチすることができる人材を育成し、林業の多角化を狙う。また学校教育に林業を導入することで秋田市民への浸透を図る。また、教育留学に林業体験を組み込むことで県外の人への周知も狙う。

林業を働きやすい業界とし、市民の生活に浸透させることで秋田市民が地元を林業の街として誇れるよう、上記の提案を行った。



### 常盤台における小さなコミュニティの創出

小川 康太（環境情報）、清水 翼（国際社会科学）、鳥越 温生・三浦 萌芽（都市イノベーション）

当グループでは、横浜市保土ヶ谷区常盤台地区を対象とした。常盤台地区の特徴は、丘陵部で坂道の多い地域であり、地域の中心に横浜国立大学が位置している。地域の課題としては、大学による地域の地理的分断や地域コミュニティの偏り、地形・高齢化による移動課題の深刻化が挙げられるが、地域内に大学があることは地域にとって強みとも考えられる。

2050年のビジョンとして、常盤台地区内における多様なコミュニティが点在する状況を目指す。1人1人が居心地の良いコミュニティを持つことが、豊かな暮らしの実現に繋がると考えたからだ。そのために中心となるのはグリーンスローモビリティ（以下グリスロと省略）の導入である。グリスロの導入によって、大学構内、地域内の拠点を繋ぐことで地域内の移動を活発にさせ、多様なコミュニティの活性化を促す。併せて乗り合いによる会話の促進や坂道に対するポジティブな認知への転換が見込める。拠点としては、大学内に未来の

地域の担い手である子どもの居場所を創出したり、大学周辺の低未利用地を有効活用したりすることを想定する。グリスロが拠点と拠点、人と人を繋ぐインフラとして機能すること、これらの取り組みに地域の資源の1つとして大学が連携することで、常盤台をより楽しい街として2050年を目指す。

ロジックモデル



## -1. 学際的研究

地域実践教育研究センターは学際的研究の場として研究活動を推進してきました。これまでに「神奈川県・大学発政策提案制度」においては、2013～2014年度に「県民総力戦による事前復興計画」、2015～2016年度に「未来につなぐ神奈川の里山-里地里山の保全効果に関する学際的研究」、2019～2020年度に「Woody～広葉樹の活用による地域活性化と県民の健康増進～」が採択され、学際的な研究の成果を提供してきました。

なお、2017年からは地域連携推進機構にNext Urban Labが設置され、地域に関わる学際的研究の拠点機能は地域連携推進機構に移転しています。

## -2. 地域研究

毎年度末には当センターに関わる教員の研究室・ゼミで研究した成果として梗概論文を取りまとめ、「地域研究報」として「横浜国立大学 学術情報リポジトリ」に保管しています。一般の方もウェブサイトを通じて閲覧することができます。

◆ 地域研究の各論文は、下記サイトおよび右記のQRコード先からご覧いただけます。

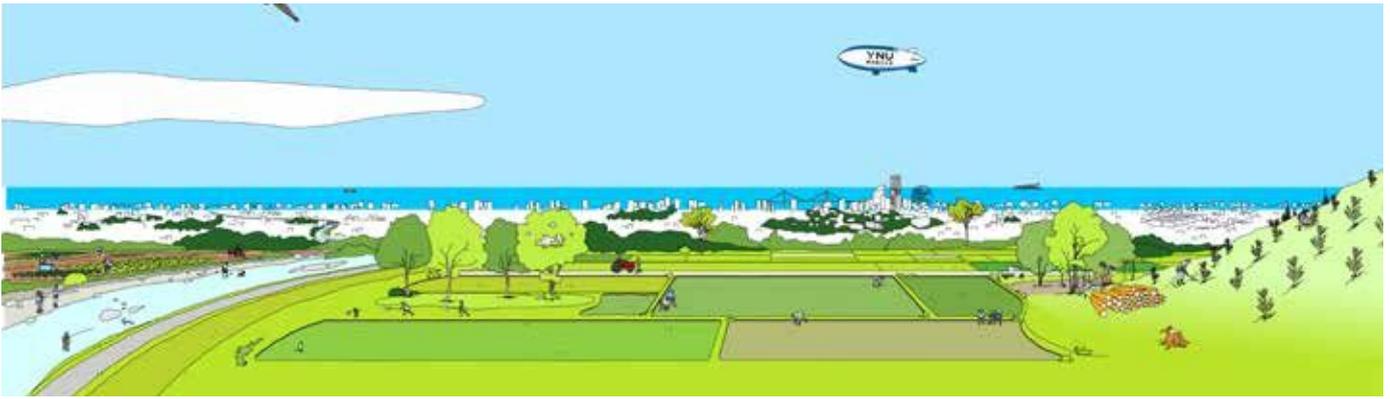
横浜国立大学 学術情報レポジトリ > 10 全学教育研究施設等 > 10-4 紀要 >

10-4-61 横浜国立大学地域実践教育研究センター地域課題実習・地域研究報



No.	論文タイトル名	執筆者, 担当教員名
1	山下ふ頭再開発に関わる経済効果の研究	後藤駿太, 内藤彩月, 石井宏樹, 灘尾薫, 伊藤優太郎, 中村直也, 居城琢
2	東海オンエアの聖地巡礼による愛知県岡崎市への経済波及効果と聖地巡礼者の消費行動分析	足立佳穂, 居城琢
3	産業連関表を用いた桐生市織物産業の和装離れの影響分析	後藤駿太, 居城琢
4	ファジアーノ岡山の夢チケがもたらす影響分析	齋藤直弥, 居城琢
5	障害者の就労が持つ経済波及効果	松原愛結, 居城琢
6	読売ジャイアンツ球場で行われるプロ野球2軍公式戦が川崎市に与える経済波及効果	村山龍平, 居城琢
7	横浜国立大学に通う留学生が地域に与える影響に関する研究報告	内藤彩月, 居城琢
8	江ノ電沿線地域における市民等優先入場がもたらす経済波及効果	山田知佳, 居城琢
9	海外アーティストが日本で行うライブの経済波及効果とSNS宣伝効果	小島美果, 居城琢
10	テレビ番組の放送効果について	児島熙, 前田将希, 居城琢
11	地域版スポーツGDPGDP (GRPGRP) の算出及び地域間比較～横浜市を事例に～	伊藤優太郎, 居城琢
12	淡路島産業連関表、淡路島本社部門産業連関表の作成と分析	姥谷航生, 居城琢
13	子どものフリースクールのニーズ—現代社会において子どもに必要とされている学びの場とは—	米山朋花, 居城琢
14	横浜びあアリーナmmで行われた東海オンエアのイベントによる岡崎市への経済波及効果	大久保友稀, 居城琢
15	神奈川県地域活性化モデルの作成及び考察	土井瑠衣香, 居城琢
16	広島空港移転による経済波及効果の変化	灘尾薫, 居城琢
17	宮市亮選手の経済波及効果	枝村磨生南, 居城琢
18	日本語ラップの変遷及びそれに伴う経済効果	伊藤啓祐, 居城琢
19	新型コロナウイルスで発展したオンラインライブの今後の展望	衛藤実有, 居城琢
20	アフターコロナにおける、埼玉西武ライオンズホームゲームの来場者が所沢市に与える経済的影響	寺本幹大, 居城琢
21	中高生の座席選択からみた居場所としての図書館に関する研究	小林芽依, 大原一興, 藤岡泰寛
22	新駅が開業した地域における地域活動の変化に関する研究 神奈川県内に開業した新駅を対象として	小泉勇真, 大原一興, 藤岡泰寛
23	小規模多機能型居宅介護サテライト施設の現状と課題 —運営者から見た施設の実態—	梶木康平, 大原一興, 藤岡泰寛
24	学生が参加する地域活動を通じた高齢住民の主体性形成に関する研究 —常盤台羽沢地区におけるまちづくりを例に—	伊藤礼佳, 大原一興, 藤岡泰寛

25	バリアフリー基本構想における学校の位置づけに関する研究 — 東京都と神奈川県の自治体を対象として—	有岡優佑, 大原一興, 藤岡泰寛
26	居住実態からみたシェアハウス型学生寮の建築計画に関する研究 — 横浜国立大学学生寮・常盤台インターナショナルレジデンスを事例として—	鍋平和輝, 大原一興, 藤岡泰寛
27	遊べるイスにみる地域の交流拠点のあり方 — 製作過程から利用における多世代交流の形—	望月那菜美, 大原一興, 藤岡泰寛
28	銭湯の都市拡張期の立地傾向と現存要因の分析 — 横浜市内の銭湯を対象として—	脇田脇之介, 大原一興, 藤岡泰寛
29	多様なジェンダーに配慮したこれからのキャンパストイレに関する研究	羽田光梨, 大原一興, 藤岡泰寛
30	中山間地域の中心市街地における空き家・空き店舗の福祉活用に関する研究 — 神奈川県Y町を事例として—	長谷川 明香, 大原一興, 藤岡泰寛
31	中山間地における空き家の発生に関する研究 — 山北駅前商店街の空き店舗を活用した定住・移住促進及び地域共生社会づくりの取り組みを通じて	川島多聞, 大原一興, 藤岡泰寛
32	大学のユニバーサルデザイン整備のあり方に関する研究 — 横浜国立大学常盤台キャンパス屋外エレベーター設置後の状況のあり方から—	川崎浩輝, 大原一興, 藤岡泰寛
33	高齢化の進む公営住宅団地における学生入居事業への期待 に関する研究	卯川遍, 大原一興, 藤岡泰寛
34	大学高等専門学校などの教育機関におけるデジタルファブリケーション設備の活用について	平田雄基, 大原一興, 藤岡泰寛
35	まちづくり会社の担う事業の変化に関する研究—熱海の公民連携事業を対象として—	佐藤美那子, 江口亨
36	移住者の不安要素の解消手法に関する研究-埼玉県小川町における移住者の受け入れ体制に着目して-	早川葵, 江口亨
37	高経年団地居住の高齢者を中心とした夏季の就寝環境の実態調査	高山友美恵, 田中稲子, 清野友規
38	人工衛星CE-SAT-IIBの夜間光データを用いた東京都心部における光害の評価	二宮輝, 清野友規, 田中稲子
39	港北ニュータウンにおける斜面緑地の冷気移流の実態とその活用に関する研究	YANG ZIZHEN, 稲垣景子, 吉田聡
40	まちづくり協定地区における壁面色彩による景観印象に関する研究 — 荏田北2丁目地区を対象として-	谷川一, 吉田聡, 稲垣景子
41	自然災害リスクが地価に与える影響分析 — 相模湾沿岸市町を対象として—	津守真帆, 稲垣景子, 吉田聡
42	時刻別人口特性をふまえた津波避難困難地域分析 — 神奈川県鎌倉市におけるケーススタディー—	山田菜月, 稲垣景子, 吉田聡
43	地震時の避難所避難者数の推計と空間分布特性分析 — 横浜市を対象地として—	鄭智允, 稲垣景子, 吉田聡
44	健康増進を目的としたみちづくりが歩行者の歩行意欲に与える影響についての研究 — 横浜市健康みちづくり推進事業 神奈川区ルートを対象として—	高橋慧, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
45	市民緑地制度における維持管理主体の拡充に関する研究 -練馬区憩いの森における区民管理に着目して-	高井優紀, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
46	行政・住民による斜面市街地の道路空間におけるカスタマイズの実態に関する研究 — 呉市両城地区を対象として—	年盛文也, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
47	住宅地に立地する非住宅用途の実態に関する研究 — 鎌倉市佐助地域を対象として—	松本望実, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
48	複数のまちの居場所が展開する過程とその要因の研究 -武蔵新城を事例として-	森田彩日, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
49	都市空間における協働型パフォーマンス活動の実態と今後の可能性に関する研究 — 横浜市内の活動団体に着目して—	佐々木健斗, 野原卓, 高見沢実, 矢吹剣一
50	みちあそびのしやすい社会の実現に向けた制度に関する研究 - イギリス ブリストル市のTPSO制度を対象として -	森 慧悟, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一
51	横浜市創造界隈拠点による市民の文化芸術活動促進に関する研究	的羽佑菜, 野原卓, 高見沢実, 矢吹剣一
52	オンラインコミュニティを端緒とした関係人口による地域おこしについての研究 -Nishikigoi NFTプロジェクトを対象として-	河村凌平, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一
53	行政と住民の連携による生活街路空間の管理手法とそのプロセスに関する研究 —フォレストージ高幡鹿島台を対象として	川田 真史, 野原卓, 高見沢実, 矢吹剣一



### 地域連携推進機構について

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

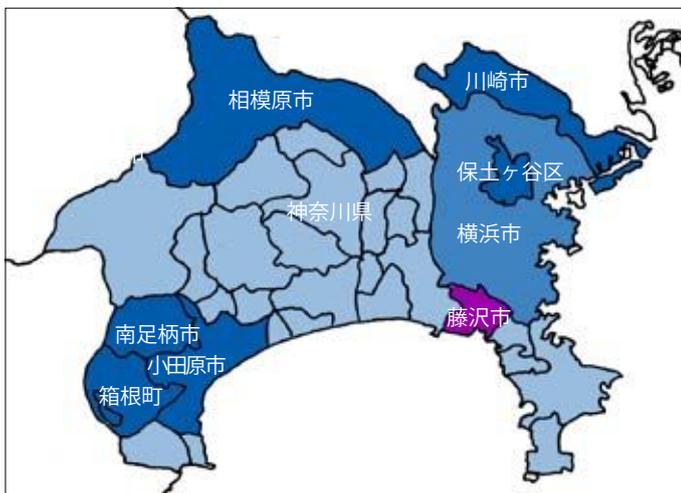
地域実践教育研究センターは2019年度から、成長戦略教育研究センターは2020年度から機構内センターとして位置付けられました。



### 地方自治体との連携協定

本学では、各地方自治体や事業者等と連携協定を結ぶことによって、より充実した教育活動や研究成果を創出・提供しています。

\* 藤沢市とは地域創生・地域活性化に関する連携協定を締結しています。



連携協定を締結している地方自治体

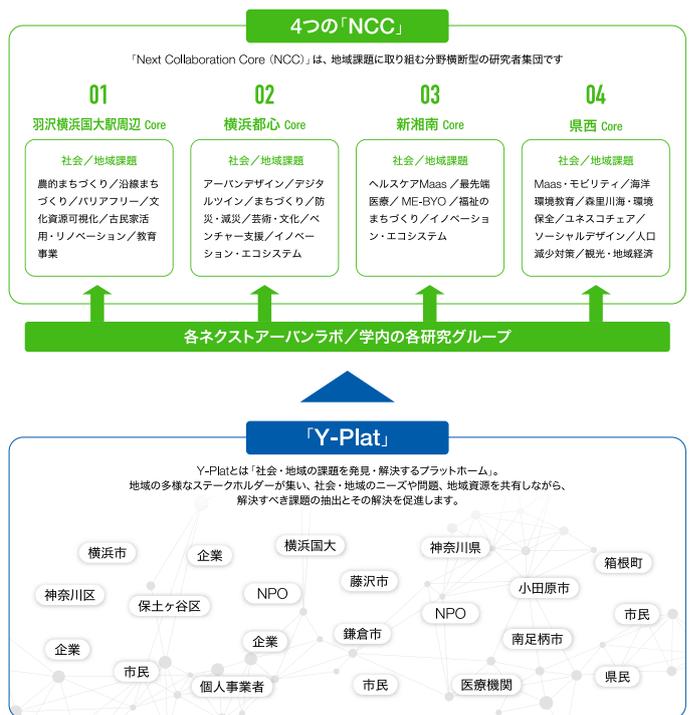
### 社会・地域課題の解決に取り組む Y-Plat & NCC

地域連携推進機構では、本学教員が地域と関わった研究活動を推進するとともに、その成果を可視化する「ネクストアーバンラボ」の仕組みをつくってきました。

2022年度からは、本学が有する多様な学術知・実践知を駆使した「社会・地域課題を発見・解決するプラットフォーム(Y-Plat)」を構築しようと取り組んでいます。

このプラットフォームでは、多様なステークホルダー（自治体、産業界、学校、市民等）と連携して、様々な社会・地域課題を発見し、本学教員による分野横断型のチームが中心となり、課題解決策を検討しています。

その取り組みの中で「ネクストアーバンラボ」を発展させた「ネクストコラボレーション拠点(NCC)」を形成し、社会・地域課題の解決にさらに貢献できるように取り組んでいます。また、地域にサテライトキャンパスを設置し、これらの取り組みを支えています。



※ 詳しくは地域連携推進機構の Web サイトをご覧ください。

検索：

地域連携推進機構

## ■ 機構長



田中 稲子  
Ineko TANAKA

副学長 (地域担当), 地域連携推進機構長, 都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授 / 建築環境工学, 住環境

## ■ センター長



氏川 恵次  
Keiji UJIKAWA

地域実践教育研究センター・センター長 / 国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・教授 / 経済統計・経済モデリング, 環境経済学



志村 真紀  
Maki SHIMURA

地域連携推進機構・准教授 / 地域・都市デザイン, 建築意匠, まちづくり, デザイン学

## ■ 客員教授



秋元 康幸  
Yasuyuki AKIMOTO

地域連携推進機構・客員教授 / 都市政策, 都市デザイン

## ■ 客員教授



山崎 満広  
Mitsuhiro YAMAZAKI

地域連携推進機構・客員教授 / 都市デザイン, 地域経済開発, 新規事業開発



池島 祥文  
Yoshifumi IKEJIMA

学長補佐 (地域担当), 国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・教授 / 農業経済学, 地域経済学



倉田 薫子  
Kaoruko KURATA

環境情報研究院, 先進実践学環, 教育学部・准教授 / 生物多様性保全, 植物地理学



小林 誉明  
Takaaki KOBAYASHI

国際社会科学研究院 (法学), 先進実践学環・准教授 / 政治経済学, 国際協力論, 開発政策研究, ODA 政策研究



居城 琢  
Taku ISHIRO

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・准教授 / 地域経済論, 産業関連論, 中小企業論, 環境経済論



倉田 久  
Hisashi KURATA

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経営学部・教授 / 経営工学, 経営情報論, サービス経営



松行 美帆子  
Mihoko MATSUYUKI

都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授 / 都市計画, 開発途上国都市論



佐藤 峰  
Mine SATO

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部, 准教授 / 国際開発学, 社会人類学, コミュニティ・デザイン



野原 卓  
Taku NOHARA

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 都市計画, 都市デザイン



矢吹 剣一  
Kenichi YABUKI

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 都市計画, 都市デザイン, まちづくり



尹 莊植  
YOON Jangshik

都市イノベーション研究院, 都市科学部・准教授 / 都市計画, まちづくり



**本藤祐樹**  
Hiroki HONDO

環境情報研究院, 理工学部・  
教授 / 技術評価論, エネル  
ギー環境システム分析, ライ  
フサイクルアセスメント, エ  
ネルギー心理学



**小林剛**  
Takeshi KOBAYASHI

環境情報研究院, 先進実践学環,  
都市科学部・准教授 /  
環境安全化学, 化学物質管理,  
都市環境汚染



**遠藤聡**  
Akira ENDO

環境情報研究院, 先進実践学  
環, 都市科学部・准教授 /  
都市・地域経済学



**中村一穂**  
Kazuho NAKAMURA

工学研究院, 理工学部・准教授 /  
化学工学, 水環境工学,  
バイオプロセス



**内海宏**  
Hiroshi UTSUMI

非常勤講師 (地域連携と都市  
再生 A) / 地域・地区計画, 市  
民協働論, 地域・市民まちな  
くり論



**為近恵美**  
Emi TAMECHIKA

地域連携推進機構・教授 /  
応用物理, ナノテクノロジー,  
アントレプレナー教育,  
イノベーション人材育成



**湯沢雅人**  
Masato YUZAWA

地域連携推進機構・非常勤教員 /  
マーケティング論, 製品開発論,  
イノベーション創出



**安野舞子**  
Maiko YASUNO

教育推進機構・准教授 /  
高等教育, リーダーシップ教育,  
人と動物の関係学



**原口健一**  
Keinchi HARAGUCHI

教育学部・教授 /  
木工・木彫



**山崎圭一**  
Keiichi YAMAZAKI

国際社会科学研究院, 経済学部・  
教授 / 途上国経済, ブラジル  
研究, 都市住宅政策, 住宅金融



**伊集守直**  
Morinao IJU

経済学部長  
国際社会科学研究院, 先進実  
践学環, 経済学部・教授 /  
財政学, 地方財政論



**大野敏**  
Satoshi ONO

都市イノベーション研究院,  
都市科学部・教授 /  
日本建築史, 建築技術史,  
伝統的民家の保存修復



**藤掛洋子**  
Yoko FUJIKAKE

都市科学部長  
都市イノベーション研究院,  
都市科学部, 先進実践学環・  
教授 / 文化人類学, 開発人類  
学, ジェンダーと開発, パラ  
グアイ地域研究



**吉田聡**  
Satoshi YOSHIDA

都市イノベーション研究院,  
都市科学部・准教授 /  
建築環境・設備



**藤岡泰寛**  
Yasuhiro FUJIOKA

都市イノベーション研究院,  
先進実践学環, 都市科学部・  
准教授 / 建築計画, 都市計画

\*2024年度に予定している関連教員として、  
地域実践教育研究センターに関わる教員および運営委員（兼任教員）をはじめ、  
地域交流科目 コア科目の担当教員、地域課題実習の主担当教員を掲載しています。



寺田真理子  
Marikoi TERADA

都市イノベーション研究院，  
都市科学部・准教授 /  
建築と都市のメディア・デザイン，  
キュレーション，コモンング



藤原徹平  
Teppei FUJIWARA

都市イノベーション研究院，  
都市科学部・准教授 /  
建築設計，建築意匠



稲垣景子  
Keiko INAGAKI

都市イノベーション研究院，  
都市科学部・准教授 /  
都市・地域防災，空間解析



江口亨  
Toru EGUCHI

都市イノベーション研究院，  
都市科学部・准教授 /  
建築構法計画，建築生産



三浦倫平  
Rinpei MIURA

都市イノベーション研究院，  
都市科学部・准教授 /  
都市社会学，地域社会学



小松怜史  
Satoshi KOMATSU

都市イノベーション研究院，  
都市科学部・准教授 /  
都市防災、インフラ長寿命化，  
コンクリート工学



小池文人  
Fumito KOIKE

環境情報研究院，先進実践学  
環，都市科学部・教授 /  
生態・環境，生物資源保全学



島圭介  
Keisuke SHIMA

環境情報研究院，先進実践学  
環，理工学部・准教授 /  
生体工学，リハビリテーショ  
ン科学，智能ロボティクス



下野誠通  
Tomoyuki SHIMONO

学長補佐（研究・医工連携）  
総合学術高等研究院・次世代  
ヘルステクノロジー研究セン  
ター長 / 工学研究院・准教授 /  
モーションコントロール，医療  
ロボット，アクチュエータ



YNU

# YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY

横浜国立大学 大学案内  
YNU Prospectus for Students

Why Study at YNU?



**Why Study at YNU?**

実践性・先進性・開放性・国際性・多様性、5つの理念はYNUの教育・研究の原点です。

47都道府県すべてから集まる約10,000人の日本人学生のみならず、そして世界中約80か国から集まる約800人の留学生のみならずの多様性が、無限の可能性とともにこの理念を支えています。

文明開化発祥の地であり、グローバル企業が集まる国際都市として知られ、みなとみらい地区や中華街をはじめとする観光地にぎわう魅力的な街、横浜。YNUはこの大都市横浜の中にありながら、緑豊かな落ち着いた一つのキャンパスで、人文・社会系分野と理工系分野が融合した教育を行い、グローバルとローカルな課題に対応できる人材を育成します。

YNUは、これからもみなさんと一緒に多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点を目指すとともに、世界基準の教育・研究の成果を社会に発信し、より良い未来を創造していきます。

The five principles of Be Active, Be Innovative, Be Open, Be Global, and Be Diverse are the foundation of YNU's education and research.

The diversity of approximately 10,000 Japanese students gathering from all 47 prefectures, as well as around 800 international students from approximately 80 countries worldwide, supports these principles with infinite possibilities.

Yokohama, Japan's birthplace of civilization and enlightenment, is recognized as a global hub where international corporations gather. It is also a charming tourist destination with attractions like the Minato Mirai district and Chinatown. Despite its location in this bustling metropolis, YNU sits on a serene and green campus. It provides interdisciplinary education in the fields of humanities and social sciences as well as science and engineering, fostering individuals capable of addressing global and local challenges.

Going forward, YNU will continuously strive to be a vibrant educational hub with a diverse student body, and will continue to disseminate world-class educational and research achievements to create a better future.

## YNUで学ぶ5つの理由

5 Reasons to Study at YNU

- ① 先進的な研究 ..... 04  
Cutting-edge Research
  - ② 実践的な教育 ..... 08  
Practical Education
  - ③ 理想的な立地と環境 ..... 16  
Ideal Location and Environment
  - ④ 充実した施設と学生支援 ..... 20  
Excellent Facilities and Student Support
  - ⑤ 手頃な費用と確かな進路 ..... 24  
Affordable Expenses and Successful Career Paths
- お問い合わせ ..... 29  
Contact

## 数字で見るYNU

YNU by Numbers

創設 <b>1874</b> Founded in	学部 <b>5</b> Colleges	大学院 <b>6</b> Graduate Schools	学部生 <b>7,500</b> Undergraduate Students
大学院生 <b>2,500</b> Graduate Students	留学生 <b>800</b> International Students	常勤教員 <b>600</b> Full-time Faculty	キャンパス <b>1</b> Campus
海外協定校 <b>140</b> Partner Institutions	県外出身者 <b>70%</b> Students from Outside of Kanagawa	出身国・地域 <b>80</b> Country / Region	学部就職率 <b>95%</b> Employment Rate of Undergraduate Students

# 1 先進的な研究

Cutting-edge Research



## 研究の強み

Research Strength

YNUでは、世界と日本の人々の福祉と社会の持続的発展に貢献する「実践的学術の国際拠点」として「知」を創造・実践しています。個々の研究だけでなく、先端科学高等研究院では重点的研究のユニットを形成するとともに、研究推進機構が優れた研究プロジェクトを「YNU研究拠点」として認定し、学内および国内外の他機関の研究者との共同研究を促進しています。また、海外の140以上の大学と学術交流協定を締結するとともに、毎年、海外の大学から約300人の研究者を受け入れています。

As an "international focal point of practical scholarship", YNU cultivates and applies knowledge that contributes to the welfare of people in Japan and beyond, as well as to the sustainable development of society. In addition to individual research, units for focused researches have been formed at the Institute of Advanced Sciences and outstanding research projects have been recognized by the Research Initiative and Promotion Organization as "YNU Research Centers" to promote collaborative research between researchers at YNU and at other institutions inside and outside Japan. Furthermore, YNU has signed academic exchange agreements with over 140 universities around the world and about 300 researchers are accepted to YNU from universities outside of Japan every year.

# 1 強い分野

Dominant fields

YNUは、以下の分野において、科学研究費助成事業<sup>※1</sup>の2019-2023年度の新規採択累計数<sup>※2</sup>が国内でトップ10に入っています。YNU is in the top ten in Japan in the following fields for total number of selected projects of "Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI)"<sup>※1</sup> in FY2019-2023.<sup>※2</sup>

分野 Research Field	国内順位 Rank	新規採択累計数 Number of Newly Selected Projects	累計配分額(単位:千円) Total allocated budget (in thousand yen)
日本語教育関連 Japanese language education-related	6	8	56,420
船舶海洋工学関連 Marine engineering-related	8	8	103,480
会計学関連 Accounting-related	8	8	27,820
安全工学関連 Safety engineering-related	2	8	81,900
航空宇宙工学関連 Aerospace engineering-related	6	7	58,240
材料力学および機械材料関連 Mechanics of materials and materials-related	9	7	83,460
構造工学および地震工学関連 Structure engineering and earthquake engineering-related	4	6	74,750
地盤工学関連 Geotechnical engineering-related	8	5	49,920
触媒プロセスおよび資源化学プロセス関連 Catalyst and resource chemical process-related	8	5	48,490
経済統計関連 Economic statistics-related	4	5	20,280

※1 「科学研究費助成事業」とは人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。

※2 ここでは、基盤研究(B)、基盤研究(C)および若手研究において、新規採択累計数が5件以上の分野に限定。

\*1 "Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI)" are competitive research funds that are intended to significantly develop all scientific research (research based on the free ideas of the researcher), from basic to applied research in all fields, ranging from the humanities and the social sciences to the natural sciences. The grants provide financial support for creative and pioneering research after peer review.

\*2 Limited only to the fields with a total number of projects newly selected for "Grants-in-Aid for Scientific Research (B)", "Grants-in-Aid for Scientific Research (C)" and "Grant-in-Aid for Young Scientists" is five or above.

# 2 卓越した研究

Distinguished research

YNUでは、以下の分野・プログラムが、2019-2023年度に科学研究助成事業の「基盤研究(S)」<sup>※</sup>に採択されています。At YNU, the following fields and programs were selected for "Grant-in-Aid for Scientific Research (S)"<sup>※</sup> in FY2019-2023.

研究分野・領域 Research Field	氏名 Name	採択時の所属・職名 Position and Affiliation of the time	プログラム名・研究内容等 Program / Contents
ナノマイクロ科学関連 Nano/micro science-related	武田 淳 TAKEDA Jun	工学研究院・教授 Professor, Faculty of Engineering	位相制御近接場によるハイブリッド極限時空間分光の開拓 Development of Phase-Controlled Near Field Spectroscopy with Extremely High Spatiotemporal Resolution
ナノマイクロ科学関連 Nano/micro science-related	小坂 英男 KOSAKA Hideo	工学研究院・教授 Professor, Faculty of Engineering	ダイヤモンド量子ストレージにおける万能量子メディア変換技術の研究 Universal quantum media conversion in diamond quantum storage
電気電子工学関連 Electrical and electronic engineering-related	竹村 泰司 TAKEMURA Yasushi	工学研究院・教授 Professor, Faculty of Engineering	磁性ナノ粒子のダイナミクス解明が拓く革新的診断治療技術 Elucidation of magnetic particle dynamics for diagnostic and therapeutic applications
電気電子工学関連 Electrical and electronic engineering-related	吉川 信行 YOSHIKAWA Nobuyuki	工学研究院・教授 Professor, Faculty of Engineering	可逆量子磁束回路を用いた熱力学的限界を超える超低エネルギー集積回路技術の創成 Creation of extremely energy-efficient integrated circuit technology beyond the thermodynamic limit based on reversible quantum flux circuits

※「基盤研究(S)」とは科学研究費助成事業の中心となる研究種目である基盤研究の中で、「安定的な研究の実施に必要な研究期間」と「研究遂行に必要な十分な研究費の確保」により、これまでの研究成果を踏まえて、さらに独創的・先駆的な研究を格段に発展させるために設けられている研究種目。原則5年間、1課題につき5,000万円以上2億円程度まで支給される大型の研究費。例年、日本全国で90件程しか新規採択されていない。

\* "Grants-in-Aid for Scientific Research (S)" are research projects in the area of basic research, which is the primary type of research project for "Grants-in-Aid for Scientific Research", that are set to significantly develop creative and pioneering research even further based on past research findings by having the research period required to conduct stable research and securing adequate research funds needed for carrying out the research. In principle, it consists of large-scale research funds ranging from about 50 million yen to 200 million yen per project. Only about 90 new projects are selected in all of Japan each year.

## ●ムーンショット型研究開発制度 採択プロジェクト

Moonshot Research and Development Program Selected R&D Projects

ムーンショット目標 Moonshot Goal	研究開発プロジェクト R&D Project	PM PM	所属・職名 Position and Affiliation
目標6 #6 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性汎用量子コンピュータを実現 Realization of a fault-tolerant universal quantum computer that will revolutionize economy, industry, and security by 2050.	量子計算網構築のための量子インターフェース開発 Development of Quantum Interfaces for Building Quantum Computer Networks	小坂 英男 KOSAKA Hideo	工学研究院・教授 Professor, Faculty of Engineering
目標8 #8 2050年までに、激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会を実現 Realization of a society safe from the threat of extreme winds and rains by controlling and modifying the weather by 2050.	安全で豊かな社会を目指す台風制御研究 Typhoon control research aiming for a safe and prosperous society	筆保 弘徳 FUJEDASU Hironori	教育学部・教授 Professor, College of Education

※「ムーンショット型研究開発制度」とは、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標(ムーンショット目標)を国が設定し、挑戦的な研究開発を推進するもの。各目標には、それぞれ複数のプロジェクトを統括するPD(プログラムディレクター)が任命され、その下に、国内外トップの研究者が、各研究開発プロジェクトを提案し推進する責任者であるPM(プロジェクトマネージャー)として採択される。

\* The Moonshot Research and Development Program promotes challenging research and development projects for ambitious government-set "moonshot" goals to attract people with the aim of resolving important social issues, such as super-aging populations and climate change. For each goal, a program director (PD) is appointed to oversee multiple projects, and under the PD, top-class researchers in Japan and abroad are selected as project managers (PM) in charge of proposing and promoting R&D projects.

# 3 世界にインパクトを与える論文

Research papers that impact the world

Web of Science<sup>※1</sup>によると、2019-2023年度に発表されたYNUの論文は、特に以下の分野において世界中で引用されています。According to the Web of Science<sup>※1</sup>, papers of YNU published in FY2019-2023 have been highly cited around the world especially in the following fields.

分野 Research Field	YNU論文数 "Web of Science" Documents	CNCI <sup>※2</sup> CNCI <sup>※2</sup>	被引用数 Times Cited	被引用数 世界トップ1%論文 % Documents in Top 1%	被引用数 世界トップ10%論文 % Documents in Top 10%
生態学 Ecology	81	2.12	1560	2.47%	18.52%
物理学・粒子・界 Physics, Particles & Fields	84	1.59	992	4.76%	13.1%
物理総合 Physics, Multidisciplinary	88	1.39	1053	3.41%	15.91%
天文学・宇宙物理学 Astronomy & Astrophysics	88	1.32	882	2.27%	12.5%
環境科学 Environmental Sciences	87	1.30	1523	1.15%	8.05%
機器・計装 Instruments & Instrumentation	78	1.30	477	2.56%	8.97%
光学 Optics	149	1.11	722	1.34%	6.71%

※1 Web of Scienceとは、世界を代表する学術文献データベースのひとつ。1900年にまで遡る世界中の21,000誌(2019年11月現在)を超える影響力の大きい学術雑誌や重要刊行物を対象に、分野を横断した検索を実行して引用文献/パターンを分析することができる。

※2 CNCIとはCategory Normalized Citation Impactの略称。CNCIのポイントが1以上の分野は、世界水準以上であると言われている。

\*1 "Web of Science" is one of the world's leading scientific citation databases. With more than 21,000 journals from around the world dating back to 1900 (as of November 2019), it enables one to carry out cross-discipline searches on influential scientific journals and important publications and assess citation patterns.

\*2 "CNCI" stands for Category Normalized Citation Impact. Fields with a CNCI of 1 or higher are considered higher than the global average.

## 注目の 国際プレスリリース

Notable International Press Releases

国際的な科学ニュースサイトEurekAlert!において、2021-2023年度に本学から発信した国際プレスリリースの中から、注目の5本のニュースをピックアップして紹介します。その他のニュースについても、大学のウェブサイトの「国際プレスリリース」で詳細を確認することができます。

This section highlights 5 notable news released by YNU on an international scientific news site "EurekAlert!" in FY2021-2023. You can also see other news released by YNU in "International Press Releases" on the university's website.

[www.ripo.ynu.ac.jp/about/ynu\\_research/haishin/](http://www.ripo.ynu.ac.jp/about/ynu_research/haishin/)

### アルカンとベンゼンの直接結合反応のための金属ナノ粒子—ゼオライト複合触媒を開発

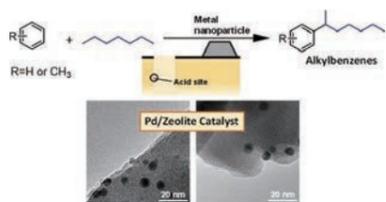
Researchers devise cleaner, more efficient production of key input for detergents

#### 酸点とPd粒子の近接による反応の高効率化を実現

Realizing a highly efficient reaction with acid sites in proximity to Pd nanoparticles

工学研究院の本倉健教授（東京工業大学 物質理工学院応用化学系特定教授）、東京工業大学 物質理工学院応用化学系 美崎慧大学院生（研究当時）、電気通信大学 燃料電池・水素イノベーション研究センター 三輪寛子特任准教授、日本原子力研究開発機構 伊藤孝研究副主幹らの研究グループは、ゼオライトの外表面にPdナノ粒子を担持した触媒を開発し、この触媒を用いてアルカンとベンゼンの直接結合反応を実現しました。従来のアルキルベンゼン合成では副生成物が大量に排出されますが、本手法を用いると水素あるいは水のみが副生成物となります。ゼオライトの酸点からPdナノ粒子への水素原子の移動がこの反応の鍵であり、μ+SR法を用いた測定から原子状水素がゼオライト中に生成した場合、反応に必要な時間にわたってその状態を維持し得ることが示唆されました。（論文は2023年9月6日にACS Catalysisオンライン掲載）本研究成果は、科学研究費補助金 学術変革領域研究B「表面水素工学」における共同研究になります。

A research group including YNU Faculty of Engineering professor Ken Motokura has developed a catalyst supported with palladium (Pd) nanoparticles on the outer surface of a zeolite to realize a direct binding reaction of alkanes and benzenes. Conventional alkylbenzene synthesis produces a large number of byproducts, but this newly developed method releases only hydrogen or water as a byproduct. Moving hydrogen atoms from the zeolite's acid sites to Pd nanoparticles is the key to the binding reaction. The μ+SR measurements suggest that atomic hydrogen formed in a zeolite can maintain its form for the time necessary for the reaction. Professor Motokura also serves as a visiting professor at the Department of Chemical Science and Engineering, School of Materials and Chemical Technology, Tokyo Institute of Technology (Tokyo Tech). Other researchers include Satoshi Misaki, a graduate student (at the time of the research) at the Department of Chemical Science and Engineering, School of Materials and Chemical Technology, Tokyo Tech; Hiroko Ariga-Miwa, a specially appointed associate professor at the Innovation Research Center for Fuel Cells, University of Electro-Communications; and Takashi U. Ito, a deputy chief researcher at the Japan Atomic Energy Agency. (Results published online in ACS Catalysis on September 6, 2023.) This research is a joint project under the Grant-in-Aid for Transformative Research Areas (B) "Surface Hydrogen Engineering."



### 低重力環境下における粉粒体の流動特性の測定に成功

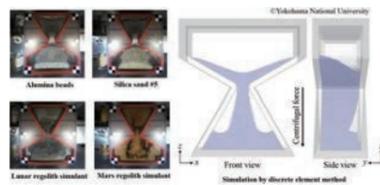
How to build better extraterrestrial robots

#### Hourglassミッション:様々な天体の重力環境を再現し月や惑星の砂を降らせる実験

Hourglass mission: Experiments to create gravity conditions of various extraterrestrial bodies to simulate the fall of sand on the moon and planets

工学研究院 尾崎伸吾教授、慶應義塾大学 理工学部 石上玄也准教授、JAXA宇宙科学研究所 大槻真嗣准教授らの研究グループは、国際宇宙ステーションきぼうモジュールの細胞培養実験装置を活用することで様々な低重力環境を再現し、各種粉粒体（砂やレゴリス模擬土）の流動特性の測定に成功しました。長時間の安定した人工重力環境下(0.063G～2.0G)での粉粒体の流動挙動の測定およびその解析は世界初の成果です。また実験結果に基づき、いくつかの砂の流動特性はよく知られた物理法則に定量的に従い、低重力では重力の大きさの平方根(√G)に比例することを明らかにしました。加えて、測定結果の回帰分析により、砂の「かさ密度」は重力とともに減少することも示唆しました。得られた成果は、将来の宇宙探査機の開発や各種ミッションの検討に利用可能です。（論文は2023年8月8日にnpj Microgravityにオンライン掲載）

A research group including YNU Faculty of Engineering professor Shingo Ozaki, Keio University Faculty of Science and Technology associate professor Genya Ishigami, and JAXA Institute of Space and Astronautical Science associate professor Masatsugu Otsuki has successfully measured the flow characteristics of different types of powdery granular materials (sand and regolith simulants) by creating various low-gravity environments using cell culture laboratory equipment in the Kibo module of the International Space Station. The group performed the world's first measurement and analysis of the flow dynamics of powdery granular materials under long-term, stable artificial gravity conditions (0.063G-2.0G). The experimental results also showed that the flow characteristics of some sands quantitatively follow well-known physical laws and are proportional to the square root of the magnitude of gravitational force (√G) at low gravity. In addition, regression analysis of the measurement results suggests that the "bulk density" of sand decreases with gravity. The outcomes obtained from these experiments can be applied to future space probe development and various mission plans. (Results published online in npj Microgravity on August 8, 2023.)



### 氷河・積雪の融解を抑制!? 雪氷藻類に寄生するツボカビの実態を解明

Chytrid fungi revealed to be parasitic species that infects snow algae

「高山や氷河に出現するツボカビは雪氷藻類に寄生するツボカビである」ということを環境情報研究院の鏡味麻衣子教授ら及び千葉大学大学院理学研究院の竹内望教授の研究チームが明らかにしました。ツボカビは、カエルやプランクトンなど様々な生物に寄生する菌類として知られています。氷河や高山積雪のような寒冷環境では、その存在は確認されてきましたが、何をしているのか明らかになっていませんでした。本研究では、ツボカビが雪氷藻類に寄生している様子を捉え、その1胞子からDNAを抽出することに世界で初めて成功し、系統関係を明らかにすることができました。さらに、これらツボカビは、世界中の高山に存在しうること、雪氷藻類に寄生することに特化したグループである可能性を示唆しました。近年、氷河や高山では、雪氷性の藻類の繁殖によって表面が色づき、融解が加速している事実が明らかになっています。その藻類にツボカビが寄生していることは、これらの藻類とツボカビの宿主-寄生者関係によって氷河や積雪の融解が抑制される可能性を示しています。（論文は2023年6月20日にFrontiers in Microbiologyにオンライン掲載）

A research team including YNU Graduate School of Environment and Information Sciences professor Maiko Kagami and Chiba University Graduate School of Science professor Nozomu Takeuchi has discovered that chytrids found in alpine areas and glaciers are parasitic chytrids living on snow algae. Chytrids are known as a fungus parasitic in a variety of organisms, including frogs and plankton. They have been detected in glaciers and alpine snowpacks, but their life cycle in these cold environments remained unknown. In this study, researchers captured chytrids on snow algae and successfully extracted their DNA from a single spore, the first attempt of its kind in the world, to identify their lineage. Their research also suggests that these chytrids can be found in alpine regions throughout the world, and that they may belong to a parasitic group particularly targeting snow algae. In recent years, the proliferation of snow algae has caused surface coloration of glaciers and high mountains, with ice and snow melting at an accelerating rate. Chytrids living on these algae indicate that this host-parasite relationship may help control the melting of glaciers and snowpacks. (Results published online in Frontiers in Microbiology on June 20, 2023.)



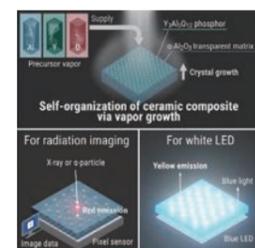
### 気体から秩序形成する無機固体蛍光体

3D pattern generation via chemical vapor deposition of ceramic eutectic system for novel solid-state phosphors

環境情報研究院の伊藤暁彦准教授、三笥佑理（当時博士課程前期2年）、松本昭源（当時博士課程後期3年）の研究グループは、サファイア-ガーネット共晶系における秩序構造の化学気相析出に成功しました。レーザー照射によって原料ガスの析出反応を促進することで、これまで熔融凝固法に限定されていたセラミックス共晶体の製造を、気相析出法で実現しました。サファイア透明体中にガーネット蛍光体を自己組

織化させた蛍光体は、次世代の固体照明や高分解能X線撮像技術への展開が期待できます。（論文は2023年5月5日にJournal of the American Ceramic Society誌にオンライン掲載）

The research group of YNU Graduate School of Environment and Information Sciences associate professor Akihiko Ito, Yuri Mitsuhashi (2nd year of the YNU Master's Program at the time of the research), and Shogen Matsumoto (3rd year of the YNU Doctoral Program at the time of the research) has successfully developed chemical vapor deposition of ordered structures in the sapphire-garnet eutectic system. The group used the vapor deposition method, instead of the traditional melt-solidification process, to produce ceramic eutectic composites by accelerating the deposition reaction of raw material gases with laser irradiation. Phosphors with garnet phosphors self-organized in a sapphire transparent matrix are expected to be applied to next-generation solid-state illumination and high-resolution X-ray imaging technologies. (Results published online in Journal of the American Ceramic Society on May 5, 2023.)

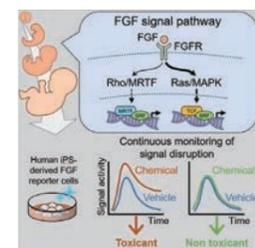


### ヒトiPSレポーター細胞を用いたシグナルかく乱を指標とする発生毒性試験法

Test spares animal subjects, identifies chemicals that may cause birth defects in humans

工学研究院の福田淳二教授、国立医薬品食品衛生研究所の久大保主任研究官らの研究グループは、線維芽細胞増殖因子シグナルの攪乱を連続的にモニター可能なヒトiPSレポーター細胞を作り、シグナル攪乱を指標としてサリドマイドとその誘導体を含む発生毒性物質を高い正確度で検出できることを発表しました。（論文は2022年2月18日にiScienceにオンライン掲載）

A research group including YNU professor Junji Fukuda and Yusuke Okubo, a senior researcher at the National Institute of Health Sciences, announced it has successfully demonstrated high-accuracy detection of developmental toxicants that include thalidomide and its derivatives by creating human-induced pluripotent stem (iPS) reporter cells capable of continuously monitoring fibroblast growth factor signal disruptions as an indicator. (Results published online in iScience on February 18, 2022.)



### 先端科学高等研究院 (IAS)

Institute of Advanced Sciences

本高等研究院は学内の世界水準の科学研究を行う分野を戦略的に集約し、研究に特化した組織です。量子情報研究センター、先進化学エネルギー研究センターの2つのセンターのほか、情報・物理セキュリティ研究ユニット、バイオアッセイ研究ユニット、超省電力マグノニックデバイス研究ユニット、電気エネルギー変換研究ユニットの4つの研究ユニットを形成し、卓越性の強化を図り、世界水準の国際研究拠点となることで本学の研究力の一層の向上を目指しています。

IAS is a research-focused organization that strategically concentrates on areas of world-class scientific research within YNU. It comprises two centers—Quantum Information Research Center and Advanced Chemical Energy Research Center—and four research units: Information and Physical Security Research Unit, Cell-based Bioassay Research Unit, High Efficiency Electrical Energy Conversion Research Unit, and Unconventional Magnonics Research Unit. It aims to establish itself as a world-class international research hub by enhancing excellence and further improve the overall research strength of the university.

[ias.ynu.ac.jp](http://ias.ynu.ac.jp)

### 総合学術高等研究院 (IMS)

Institute of Multidisciplinary Sciences

本高等研究院は学内の分野横断型の世界水準の総合学術研究を戦略的に集約し、研究に特化した組織です。リスク共生社会創造センター、台風科学技術研究センター、豊穡な社会研究センター、次世代ヘルステクノロジー研究センター、半導体・量子集積エレクトロニクス研究センターの5つのセンターのほか、共創革新ダイナミクス研究ユニット、生物圏研究ユニット、革新と共創のための人工知能研究ユニットの3つの研究ユニットを形成し、多様性の強化を図り、世界水準の国際研究拠点となることで本学の研究力の一層の向上を目指しています。

IMS is a research-focused organization that strategically consolidates world-class integrated academic research across disciplines within YNU. Apart from five centers—the Center for Creation of Symbiosis Society with Risk, the Typhoon Science and Technology Research Center, the Research Center for Sustainability, Resilience and Well-being, the Research Center for Next-Generation Health Technology, and the Semiconductor and Quantum Integrated Electronics Research Center—it forms three research units: the Co-innovation Dynamics Research Unit, the Biosphere Research Unit, and the Artificial Intelligence Research Unit for Innovation and Co-Creation Research Unit. It aims to enhance diversity and strive towards further improving YNU's research capabilities, aspiring to become a world-class international research hub.

[ims.ynu.ac.jp](http://ims.ynu.ac.jp)

「YNU研究拠点」、「研究者総覧」、競争的研究資金獲得実績など、YNUの研究に関する詳細は「YNUの研究力」をご覧ください。

Please see "YNU Research" to find out more details on "YNU Research Centers", "YNU Researchers (Database)", competitive research grants gained in the past, and research conducted by the university.

[www.ripo.ynu.ac.jp/topics/YNUResearch.html](http://www.ripo.ynu.ac.jp/topics/YNUResearch.html)

5つの学部

Five Colleges

YNUでは5つの学部において、問題の本質を見極め、時代の変化に対応し得る柔軟性と創造的な課題発見解決能力を身につけ、社会の中核となって活躍する人材の育成するため、実学を重視した教育を行っています。

YNU's five colleges offer practical education to develop future leaders who play central roles in the society. Students engage in practical learning to gain insights into the issues, flexibility to adjust to the changing times, and creative skills in identifying and resolving issues.

教育学部

Education

小学校教員養成所の設置（1874年）以来、教育現場の未来を支えるべく、多角的な視野と洞察力とを兼ね備え、環境の変化に柔軟に対応できる次世代の教員を養成している。附属学校との連携を強化しており、学生は1年次から小・中学校に出かけて実践力を磨くことができる。

Founded in 1874 as a training center for primary school teachers, the college has been providing student teachers with the knowledge, perspectives, approaches, and professional flexibility needed to meet the needs of future learners. Beginning in their first year, students obtain practical skills by attending teaching practice programs at YNU affiliated primary and junior high schools. It is important to note that the college does not accept international students except for those awarded scholarships from the Japanese Government (Monbukagakusho: MEXT).

経済学部

Economics

横浜高等商業学校（1923年設置）以来の伝統である理論と実務のバランスのとれた教育と、国際貿易港横浜を背景とした国際色豊かな教育を行う。英語による専門科目を取り入れ、グローバル社会で通用する実践的コミュニケーション能力も育むことで、グローバル化の深化に対応でき、経済社会にイノベーションをもたらす人材を育成している。

Originally founded as Yokohama Higher School of Commerce in 1923, the college has been providing a well-balanced mix of theory and practice, as well as a cosmopolitan education in the international trading port of Yokohama. Some specialized subjects are taught in English to cultivate the practical and globally-competitive communication skills of students, so they can adapt to the increasingly globalized world and bring about innovation in the economy and society at large.

経営学部

Business Administration

東日本の国立大学で唯一の経営学部。グローバルな活動・競争の中でビジネスを位置づけることができる「グローバルビジネス即応力」、ビジネスをめぐる課題を全体最適視点で定義し、ソリューションを提案できる「ビジネス統合分析力」、企業経営の観点から学際的な知を統合し、社会の変革を実現できる「イノベーション力」を持った人材を育成する。

This is the only college of business administration at a national university in East Japan. It cultivates talent who can: position their businesses within global dynamics and competition (global competitiveness and industry readiness); identify the challenges facing their businesses with respect to total optimization and propose solutions (integrated analytical skills for business); and combine academic knowledge from a management perspective to bring about social change (innovative capacity).

理工学部

Engineering Science

イノベーションを創出する「未来の創造的人材」育成のため、横浜高等工業学校（1920年設置）より始まった実践的工学教育を深化・発展させ、学生が早期の教育課程で理学・工学両方の素養を身に付けた後に専門教育を受けるカリキュラムを提供している。工学的センスを持った理学系科学者、理学的センスを持った技術者・研究者を育成する。

Since its foundation as Yokohama Higher School of Technology in 1920, the college has been deepening and broadening its trademark practical education to cultivate creative talent who will lead future innovation. The curriculum is designed for students to acquire the basics of both science and engineering before taking specialized courses. The college produces scientists with engineering insights, as well as engineers and researchers with scientific insights.

都市科学部

Urban Sciences

都市科学は、これからの都市はどうあるべきかというテーマに科学的に取り組む学問である。多くの人々が住み、働き、多様な活動が育まれ、様々な現象が起こる都市。人類や地球が直面している多くの問題を解く重要な鍵として、これからの都市のあり方を考え、文理にわたる幅広い視点から都市の未来へ挑戦する人々を育成する。

The college was newly established in April 2017. Urban science explores the desirable future of cities where many people live, work, and engage in other diverse activities. Through scientific observation of various phenomena taking place in the cities, the college fosters leaders of urban policies who can explore the future of cities from broad perspectives both in the liberal arts and the sciences to offer key solutions for the problems faced by humankind and the planet.

学科(コース)

Departments (Specializations)

● 学校教員養成課程

Department of Teacher Education

言語・文化・社会系教育コース／自然・生活系教育コース／芸術・身体・発達支援系教育コース  
Language, Culture and Society / Science, Technology and Human Life / Arts, Health & Physical and Supporting Education



● 経済学科

Department of Economics

DSEP-Econ.

LBEEP



● 経営学科

Department of Business Administration

DSEP-Biz.



● 機械・材料・海洋系学科

Department of Mechanical Engineering, Materials Science, and Ocean Engineering

機械工学EP/材料工学EP/海洋空間のシステムデザインEP  
Mechanical Engineering / Materials Science and Engineering / System Design for Ocean-Space

● 化学・生命系学科

Department of Chemistry, Chemical Engineering and Life Science

化学EP/化学応用EP/バイオEP  
Chemistry / Chemistry Applications / Life Science

● 数物・電子情報系学科

Department of Mathematics, Physics, Electrical Engineering and Computer Science

数理科学EP/物理工学EP/電子情報システムEP/情報工学EP  
Mathematical Sciences / Physics and Applied Physics / Electrical and Computer Engineering / Computer Science and Engineering



● 都市社会共生学科

Department of Urban and Social Collaboration

● 建築学科  
Department of Architecture and Building Science

● 都市基盤学科  
Department of Civil Engineering

● 環境リスク共生学科  
Department of Risk Management and Environmental Science



## 学部教育の特色

Features of Undergraduate Education

貿易と商工業で栄えてきた横浜の歴史と伝統に根差した、実学的色彩の濃い学部構成となっています。中規模大学ならではの柔軟性とワンキャンパスの機動力を発揮して、高度で実践的な学術を継承し、世界に通用する人材を育成しています。

The practical learning pursued at YNU's colleges and graduate schools is based on the deep-rooted history and tradition of Yokohama as a thriving city of trade, commerce, and industry. Fully exploiting the flexibility and adaptability of a mid-sized university with a single campus, YNU carries on the advanced and practical scholarship to cultivate globally-competitive talents.



## 教育学部

Education

### 社会の現場での実践を推進する「学外活動・学外学習」

Off-campus studies and activities in the local community

大学で学んだ知識を社会の現場で実践していく活動を大学の単位として認定しようという制度。小・中・高等学校の授業や課外活動のサポートや、子どもたちへの講座や交流活動などのボランティア活動を通して、社会的・教育的な実践力を養うのに最適な場となっている。

Students can earn university credits by attending off-campus programs in which they use the knowledge acquired in university classes. In addition, students participate in volunteer activities at elementary and secondary schools which help meet the needs of the local community. Example of these activities include providing classroom assistance for teachers, extracurricular activity support, conducting lectures, and participating in exchange activities for children. The program provides students with multiple opportunities to reflect on their studies and research at the university, while developing the social and educational skills needed for their future.

### 実践に生かせる専門教育

Practical education that can be applied in real world situations.

入学後、さまざまな領域の内容に触れながら専門とする領域を選択し、1年次秋学期以降、少人数の環境で専門分野について学び、高度な専門性を身につけます。

Students choose an area of specialization while continuing to study other fields and areas. Classes are limited in size, allowing students to develop high level expertise while receiving instructor and peer feedback. At the same time, learners have multiple opportunities to work closely with their teachers and class members.

### 各コースの専門領域

Areas of specialization for each course

- 言語・文化・社会系教育コース：国語・社会・英語・日本語教育・教育学  
Language, Culture and Society (Japanese as a Native Language, Social Studies, English, Japanese as a Second Language, Educational Research)
- 自然・生活系教育コース：数学・理科・技術・家庭科  
Nature and Life (Mathematics, Science, Technology, Home Economics)
- 芸術・身体・発達支援系教育コース：音楽・美術・保健体育・心理学・特別支援教育  
Fine Art, Body and Developmental Support (Music, Fine Art, Health and Physical Education, Psychology, Special Needs Education)

### 教育現場での実践的な経験を重視

Teaching experience at local schools

1年次から教育実践の場に参加し、学校や児童・生徒の実態を理解すると共に、自分の見出した教育の課題に4年間かけてじっくり向き合う。1年次の「教育実地研究」や2年次の「スクールデー実践」などで学校現場での学習を継続し、3年次に小学校・中学校・特別支援学校の「教育実習」が実施される。4年次の「教職実践演習」は、各教育実習と大学内での授業の体系的総括の機会となっている。

From their first year, students engage in educational activities to learn about real world conditions in elementary and secondary schools. Practical hands-on experience is provided in the first year. This is followed in the second year by practicums that take place at schools in the Yokohama area, and are part of the School Day Experience course as well as other courses. In the third year, students take part in teaching practicums at elementary, secondary, and/or special education schools. The final teaching practicum seminar is held in the fourth year and, provides students with the opportunity to think deeply and apply the theoretical and practical knowledge gained in from their education courses and practicums.



## 経済学部

Economics

### 少人数・双方向型教育

Small-class, interactive education

1年次の導入教育である基礎演習はクラスを指定し、少人数・双方向型授業を行う。情報処理演習や外国語も少人数で行う。3年次からのゼミナール（指導教員の専門に興味をもつ学生に対して卒業論文指導を中心に指導を行う）は1学年平均7名で構成されている。

In the introductory education, for the basic seminars in the 1st year, students can choose their class, where the seminars are done interactively in small sizes. Information processing seminars and foreign language are also taught in small class format. The seminars from the 3rd year are comprised of 7 students on average (Students interested in their supervisor's specialty are given guidance focused on the graduation thesis).



### 体系的な学びのプログラム

Programs for systematic learning

1年次から専門教育について体系的に学べるように、専門基礎科目が用意されている。2年次からは専門基幹科目や専門応用科目（初級レベル）で経済学の基礎をバランス良く学んだうえで、3年次以降は中級レベルとして、5つの専門分野（グローバル経済、現代日本経済、金融貿易分析、経済数量分析、法と経済社会）から自分の主分野、副分野を選択し、各学生が自分の将来を見据えて主体的に学び、高い専門性を身につけていく。

The College offers basic specialized courses for students to systematically receive specialized education from their first year. From year two, students study a good balance of the basics of economics in core specialized courses and applied specialized courses (beginner level). The intermediate level starts in year three, at which point students choose a major and minor field from among five specialist fields (global economy, modern Japanese economy, finance and trade analysis, economy quantity analysis, and law and economic society). Students thus consider their own individual future and take the initiative for their own studies, acquiring a high level of expertise.

### 英語討論会

English symposium

経済学部では、アジア英語討論会、欧州英語討論会、Global Applied Economics Forumという3種類の「英語討論会」を実施している。英語を駆使し、経済を討論することでグローバルな視点を培うため、海外経験を求める学生のために用意されたプログラム。10日から2週間程度で、海外協定校訪問と現地学生との討論会のほか、現地企業や国際機関の視察も行う。

The College of Economics holds three types of English symposiums: the Asia English Dialogue, the Euro-Japan English Dialogue, and the Global Applied Economics Forum. This program is offered for students who wish for experiences abroad by using their English in full to discuss economies, thereby developing their global perspectives. The college usually arranges 10 days to two week-long tour, and participants visit overseas partner universities, have dialogues with local university students, and observe local companies and international organizations.



## 経営学部

Business Administration

### 充実した体験型授業

Valuable experience-based classes

経営学分野でのゲーミング・シミュレーションの一つである「ビジネスゲーム」では、コンピュータ上に構築された仮想的マーケットの中で、複数の学生が企業の経営者として商品の生産、仕入れ、販売を行い競い合うことで、経営学関連の諸科目（会計、マーケティング、生産、流通、戦略など）の理解を深め、学習に対するモチベーションを高めることに絶大な効果を発揮している。さらに、「マイプロジェクトランチャー」では、学生自らプロジェクトを作成、プレゼンを行い、プロジェクト実践能力を磨いている。

In the Business Games course, which is one type of gaming simulation in the field of business administration, a number of students compete by producing, purchasing, and selling products as company managers in a simulated market. Students reap the maximum benefit by furthering understanding of business administration-related fields (e.g., accounting, marketing, production, distribution, and strategy) and increased motivation to learn. In the My Project Launcher course, students create their own project, give a presentation, and develop their project implementation skills.

### 会計CAI(Computer-Aided Instruction)

Accounting CAI (Computer-Aided Instruction)

経営学部で開講している会計関連科目（簿記論、原価会計論、管理会計論等）では、コンピュータを活用したeラーニングシステムとして「会計CAI (Computer-Aided Instruction)」を導入している。横浜国立大学の会計学スタッフが1980年代から開発に着手し、現在では、Web化やコンテンツの充実が図られるようになっている。会計CAIは、学生の理解を促進するために講義に連動した形で導入され、学生の自宅での時間外学修を促すツールとして役立てられている。なお、会計CAIの一つのモジュールである簿記CAIは、簿記教育におけるeラーニングの先駆としての先見性と、教育効果が高く評価され、平成27(2015)年度日本簿記学会学会賞を受賞している。

In accounting-related courses (bookkeeping, cost accounting, management accounting, etc.) offered by the College of Business Administration, the Accounting CAI (Computer-Aided Instruction) is introduced as a computer-based e-learning system. The accounting staff at YNU began the development of this system in the 1980s, and now it is being made available on the Web and its content is being enhanced. The Accounting CAI has been introduced in conjunction with lectures to promote student understanding and is being used as a tool to encourage students to study outside of their own time at home. In addition, one module of the Accounting CAI, the Bookkeeping CAI, received the 2015 (2015) Japan Boki Association Award for its foresight in pioneering e-learning in bookkeeping education and its educational effectiveness.

### 企業トップなどの実務家や英語による特殊講義

Special lectures held by top-level business professionals or lectures in English

「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「ベンチャーから学ぶマネジメント」といった毎週代表取締役クラスの経営者を迎え、様々な角度から企業経営を学ぶ授業がある。これらの科目を修得した後は比較的長期にわたるインターンシップ等を行い、経営学部キャリア実習の単位とすることができる。経営学の諸領域にわたる特殊講義を提供することで、生きた経営学を学び、学生自身のキャリアビジョンを描けるよう支援している。

In addition to general programs, special classes are held once a week inviting corporate executives to lecture on corporate management from various angles, including subjects such as "leadership and management theory taught by a manager" and "management learned at a venture company." After completing these courses, students can participate in a comparatively long-term internship, and thus earn credits as Career Practicum in the College of Business Administration. The college helps students to learn real business management and to develop their own career visions by providing specialized lectures over various fields of business administration.



## 都市科学部

Urban Sciences

### 都市科学の基本的な素養・リテラシー・技術を習得する「学部共通科目」

"College-wide Common Courses" to acquire basic knowledge, literacy, and skills in urban science

都市科学の素養やリテラシー・技術を確実に身に付けるため、都市科学部学生全員が1・2年次に学ぶ「学部共通科目」が充実している。学部共通科目は、「都市科学の基礎」および、「グローバル・ローカル」、「リスク共生」、「イノベーション」の3つの分野の関連科目で構成されている。

College-wide common courses that teach basic urban science components, literacy, and skills To achieve a firm grasp of urban science, there are thorough college-wide common courses that all students in the College of Urban Sciences take in their first and second year. College-wide common courses are composed of related courses in the Basics of Urban Sciences and in the three fields of Global/Local, Risk Symbiosis, and Innovation.

### 分野横断、文理融合の教育プログラム

Multidisciplinary Education Programs that merge the humanities and sciences

分野横断、文理融合の学びを実質化するために、様々な仕組みを設けている。学部共通科目の「都市科学A・B・C」では文系・理系の複数の教員がオムニバス形式で講義を進め、「社会デザイン・フューチャーセッション」では、教員と学生による双方向の講義を行う。また、所属と異なる学科が開講している科目を専門科目として修得できる。さらに、卒業研究においては、複数の分野の教員による指導を受けることができる。

Various systems have been established at YNU to achieve multidisciplinary learning that merges the humanities and the sciences. For Urban Science A, B, C in the college-wide common courses and Basics of Urban Sciences (compulsory), multiple faculty members in the humanities and sciences hold omnibus-style lessons. Similarly, in the Social Design Future Session in the college-wide common course of the Innovation-related Course (compulsory elective), lectures are bidirectional between faculty and students. Also, students can take courses provided by other colleges as their specialized courses. For the graduation research project, students can also receive guidance from faculty in more than one field.



## 理工学部

Engineering Science

### 「名教自然」の精神

Meikyo Shizen spirit

「名教自然」とは、無試験、無採点、無賞罰の「三無主義」に象徴される横浜高等工業学校（理工学部前身）の教育思想。優れた教育・研究は自然を尊ぶ、つまり学問は強制されず、自らの意思で自発的に、自由に学ぶべきであり、自学自発の教育主義により、優れた人材を育成するという意味。「三無主義」はすでに廃止されているが、今でもYNUの理工学系教育の精神として根付いている。

"Meikyo Shizen" is the educational philosophy of the Yokohama National Professional School of Engineering (the predecessor of the College of Engineering Science) symbolized by its "three no's principle," which means no tests, no scores, and no rewards or punishments. Excellent education and research values nature. In other words, learning is not forced, allowing students to take the initiative to learn without constraint under an educational principle of spontaneous self-learning, thus developing into an excellent professional. Although the three no's principle has been abolished, it continues to form the foundation of science and engineering education at YNU as its underlying spirit.

### 理工学部の最先端の研究に早期に参加できる「ROUTE・iROUTE」プロジェクト

"ROUTE・iROUTE" projects that let the undergraduate students in the College of Engineering Science participate in cutting-edge research

ROUTE (Research Opportunities for Undergraduates) とは、通常4年生から研究室に配属となる中、やる気のある1~3年生が早い段階から研究室に入り先端研究に取り組むことができる「出る杭を伸ばす」プロジェクト。さらに、iROUTE (「i」はinternationalの頭文字) では、ROUTE参加学生が、指導教員の海外共同研究先に研究留学したり、逆に海外有力大学から本学に教授を招へいし集中講義を受講するなど、国際感覚を養う。第24回工学教育賞（文部科学大臣賞）受賞の注目プロジェクト。

The Research Opportunities for Undergraduates (ROUTE) project that enables participation in cutting-edge research is run for first to third year students in the College of Engineering Science. Students who participate in ROUTE learn the appeal of research from an early stage and it can lead to them actively participating with even greater interest in lectures that tend to be passive. Also, iROUTE (the "i" means "international") is for students who participated in ROUTE from early on and produced research results. It consists of programs to develop an international mentality by letting students experience research at their supervisor's collaborative research facility abroad and programs in which professors from influential universities in other countries are invited to YNU for undergraduate students to experience lectures with the same content as that of the influential university and foster an international mentality.

### 横浜・神奈川地域をフィールドとして実践力を養う

Fostering practical skills in Yokohama and the Kanagawa region

多様な都市の課題を抱える最先進の国際都市「横浜・神奈川地域」の歴史や文化、都市づくりなどについて幅広く学ぶことができる都市科学部開講科目の「地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）」、経済学部開講科目の「地域連携と都市再生B（かながわ地域学）」を履修することができるほか、各学科の演習科目、卒業研究でも、横浜・神奈川地域を積極的にフィールドとして取り組み、地域に関する情報やデータと実際の地域のフィールドワークと組み合わせることで実践力を養う。

Students can take the Regional Cooperation and Urban Regeneration A (Yokohama Regional Studies) course held by the College of Urban Sciences and the Regional Cooperation and Urban Regeneration B (Kanagawa Regional Studies) course held by the College of Economics that teach a broad range of topics such as the history, culture, and urban development of Yokohama as a leading international city with various urban challenges and the Kanagawa region. In addition, Yokohama and the Kanagawa region are also actively utilized as the field for seminar courses for each college and graduation research, and students develop their practical skills by combining information and data related to the region with actual field work there.

### 高い専門性と広い基礎教育

Advanced specialization and broad basic education

学部担当教員が、学科の枠を超え学部基盤科目として授業を提供することで複数の教育プログラム（EP）に参画し、EPの専門性に加えて、広い理工学基礎教育が充実している。

Supervising faculty in the College of Engineering Science participate in multiple Education Programs (EP) by offering courses as a foundation course for undergraduate students that exceed the boundaries of specializations. This both increases the specialization of Education Programs and enables broad education in science and engineering basics.

### 副専攻プログラム

Minor program

理工学部では、学生が履修する教育プログラム（主専攻プログラム）での学修に加え、広く他分野の科学技術に目を向ける進取的精神の涵養と、新たな知識の地平を切り拓きつそこに内蔵される課題を振り起こす能力を磨くため、ある専門領域の主題に沿って設計された学部内横断的な教育プログラム（理工学部副専攻プログラム）を学ぶことができる。この副専攻プログラムを履修するためには、4年次までに登録を行う必要がある。副専攻プログラムを学ぶ学生は、卒業要件である主専攻プログラムの科目履修（124単位）に加え、副専攻プログラムで指定された科目（標準は24単位）を履修する。指定科目を履修して所定の要件を満たした者には修了証が授与される。

At the College of Engineering Science, in addition to studies in the Education Program the student is taking (Major Program), students can take an Education Program (College of Engineering Science Minor Educational Program) that covers a range of topics taught in the College to match the central themes of a particular field of speciality in order to foster an enterprising spirit in students who also focus on science and technology topics in a wide range of other fields and develop their capacity to open new horizons of knowledge and discover the embedded challenges. To participate in the Minor Program, students must register by their fourth year. Students participating in a Minor Program take courses specified by the Minor Program (standard of 24 credits) in addition to the courses for their Major Program (124 credits) required for graduation. Those who take the specified courses and meet certain requirements are given a certificate of completion.

### YOKOHAMAソクラテスプログラム

YOKOHAMA Socrates Program

Social ResilienceとSocial Sustainabilityの2つのテーマに関わる人文社会科学のさまざまな論点や分析の方法を学ぶグローバル教育プログラム。英語と日本語を共通言語として学士号を取得できる。各科目は少人数教育で行われ、演習では対話を重視する、いわゆるソクラテスメソッドを使いながら進められる。卒業研究ではCo-supervisor制度をとり、現代の諸課題に対して適切な方法論を使いながら自分の頭で深く考えて結論を導き出すことを目指す。

This program will be centered around the issues and methodologies in the humanities and social sciences related to the twin themes of social resilience and social sustainability. It is a bilingual global education program enabling students to obtain a bachelor's degree with English and Japanese as common languages. Students will participate in small classes, including seminars conducted through the dialogue-based Socratic method. Graduation theses will be co-supervised by two faculty members who will advise students with the aim of enabling them to utilize appropriate methodology for thinking deeply with their own minds about issues of our times in completing their works.

## 6つの大学院 Six Graduate Schools

YNUでは6つの大学院において、高度で専門的な教育・研究を行い、リーダーとして世界で活躍できる高度専門職業人を輩出することで社会の更なる発展に寄与しています。

Advanced and specialized education and research conducted at YNU's six graduate schools produce highly specialized professionals who stand in the front line and make a difference around the world.

### 大学院英語プログラム All English Graduate Programs

YNUでは右記の英語プログラムを提供しています。また理工学部ではすべての講義は英語で提供されます。

YNU offers the following programs in English. Also, all lectures at the Graduate School of Engineering Science are taught in English.

● 修士プログラム  
Master's Programs  
国際基盤工学/国際基盤学 (IGSI) /インフラストラクチャー管理 (IMP)  
International Development Engineering / International Infrastructure (IGSI) / Infrastructure Management (IMP)

● 博士プログラム  
Doctoral Programs  
国際経済/日本の経営/トランスナショナル法政策/国際基盤工学  
Economics / Japanese Management / Transnational Law and Policy / International Development Engineering

### 教育学研究科 Education

社会環境の急激な変化に伴い、学校教育をめぐる諸問題が複雑化・深刻化する中で、より高度で実践的な能力を備えた教員・研究者・専門家が求められている。教科別・ジャンル別の固定的な教育・研究の枠にとまらず、現代社会に即応できる、あるいは近未来を見据えた、新しいスタイルや内容による「教育デザイン」を実現できる人材を養成する。

In the rapid change of social environment, teachers, researchers, and experts with more advanced and practical skills are needed to address the increasingly complex and urgent issues related to school education. Going beyond any rigid division of education and research by subject or genre, the graduate school prepares leaders who can design education with new styles and substances that are relevant to the society today and will remain so in the near future.

### 国際社会科学府 International Social Sciences

国際社会で活躍する高度専門実務家・研究者を育成する社会科学の総合的大学院。経済学・経営学・法学の分野の高い専門性を身に付けるとともに、異なる社会経済環境に適応できる幅広い専門知識を有する人材を育成する。専攻横断的プログラムや英語によるプログラムを設け、専門性を活かした融合的・国際的な教育研究を行っている。

As an all-round graduate school of social sciences, the graduate school develops highly specialized practitioners and researchers who play leading roles in the international community. Students not only develop their expertise, but also gain broader knowledge for adapting to different socio-economic environments. The graduate school offers interdisciplinary and international education and research programs to help students leverage their expertise in an integrated manner on the world stage.

### 理工学部 Engineering Science

社会からの様々な要請を的確に把握し、地球規模の環境問題などに対処しつつ新たな産業と学術を開拓して輝ける未来を切り拓くために、自らの専門分野以外の分野の科学技術にも目を向ける進取の精神に富み、高い倫理観とグローバルに活躍するために必要な国際的に通用する知識と能力において理学と工学の両方のセンスを兼ね備えた理工系人材を育成する。

To accurately grasp the various demands of society, and to develop a bright future by pioneering new industries and academia while addressing global environmental issues, the graduate school will foster science and engineering professionals who have an enterprising spirit to look at science and technology in their own and other's fields of expertise, and who combine a sense of both science and engineering with high ethical standards and the internationally accepted knowledge and abilities necessary to be active on the global stage.

### 環境情報学部 Environment and Information Sciences

環境と情報を基軸とした学際的な文理融合的視座を持ち、環境や社会に対する総合的な理解のもとで、人工環境、自然環境、情報環境に関する自らの専門的な知識と技能を活用して、安心・安全な持続可能社会を構築する上で必要な課題を自ら発見し、解決への道筋を生み出すことのできる人材を育成する。

The graduate school aims to produce professionals with highly specialized skills to build a safe and sound sustainable society. With their comprehensive understanding of environments and societies, graduates are expected to identify challenges and present solutions to make this happen by mobilizing their expertise in artificial, natural, or informational environments from interdisciplinary perspectives across the liberal arts and sciences.

### 都市イノベーション学部 Urban Innovation

大都市が抱える経済の停滞、高齢化や少子化などの社会問題、地球温暖化に代表される環境問題、中小規模都市の人口・都市活動の流出や都市自体の縮退、さらには新興国や開発途上国での急激な経済成長や産業構造変化に伴う社会基盤や生活基盤の諸課題を分析・掌握し、解決に向けての方策を提案できる専門知識を習得する。

The graduate school enables students to acquire expertise in analyzing, understanding and offering solutions to various issues including economic stagnation in major cities, social problems such as ageing societies with declining birth rates, global warming and other environmental issues, migration of people and urban activities from smaller cities and their decline, and strain in social and life infrastructure in emerging economies and developing countries.

### 先進実践学環 Innovative and Practical Studies

国際社会科学府、理工学部、環境情報学部、都市イノベーション学部の教育研究分野の融合を図るため、YNUの「環」として2021年に誕生。「社会を構成する人間の理解」と「先進的な数理・データサイエンスの技法」を身につけ、文理融合・異分野融合の視点を持つことで、新たな価値を創出し、Society 5.0の構築や普及を牽引する人材を養成する。

Established in 2021 as a "circle (環)" of YNU to integrate the academic fields of the graduate schools of International Social Sciences, Engineering Science, Environment and Information Sciences, and Urban Innovation, the interfaculty graduate school trains students to create new values and lead the construction and dissemination of the "Society 5.0" by equipping them with the interdisciplinary perspectives as well as "a deep understanding of humans composing our society" and "the skills of advanced mathematical and data science".

### 専攻(コース)

### Departments (Specializations)

#### 修士課程

Master's Program

#### ● 教育支援専攻

Division of Education Support Specialist  
心理支援コース/日本語教育コース  
Psychological Support / Japanese as a Second Language

#### 専門職学位課程

Professional School

#### ● 高度教職実践専攻(教職大学院)

Division of Advanced Professional Practice in Education (Professional School for Teacher Education)  
学校マネジメントプログラム/教科教育・特別支援教育プログラム  
(School Management / School Subjects and Special Needs Education)

※その後の進学先として、東京学芸大学、埼玉大学、千葉大学、横浜国立大学で構成される連合大学院で、博士課程後期のみの独立研究があります。

\* After the master's degree or professional degree, there is an independent doctoral program at the United Graduate School consisting of Tokyo Gakugei University, Saitama University, Chiba University, and Yokohama National University.



#### 博士課程前期・後期

Master's and Doctoral Programs

#### ● 経済学専攻

Department of Economics

#### ● 経営学専攻

Department of Business Administration

#### ● 国際経済法学専攻

Department of International and Business Law

#### 博士課程前期

Master's Programs

#### ● 経営学専攻

Department of Business Administration

社会人専修コース(横浜ビジネススクール)

Master of Business Administration Course (Yokohama Business School)



#### 博士課程前期・後期

Master's and Doctoral Programs

#### ● 機械・材料・海洋系工学専攻

Department of Mechanical Engineering, Materials Science, and Ocean Engineering

機械工学教育分野/材料工学教育分野/海洋空間教育分野/航空宇宙工学教育分野(前期のみ)/エネルギー材料教育分野(後期のみ)

Mechanical Engineering / Materials Science Frontier / Systems Design for Ocean-Space / Aerospace Engineering

#### ● 化学・生命系理工学専攻

Department of Chemistry and Life Science

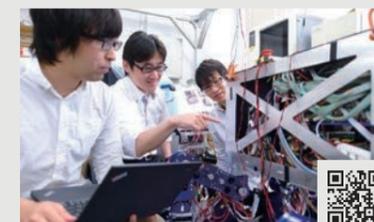
化学教育分野/応用化学教育分野/エネルギー化学教育分野(前期のみ)/化学応用・バイオ教育分野/エネルギー材料教育分野(後期のみ)

Chemistry / Applied Chemistry / Energy and Sustainable Chemistry / Chemistry Applications and Life Science

#### ● 数物・電子情報系理工学専攻

Department of Mathematics, Physics, Electrical Engineering and Computer Science

数学教育分野/物理工学教育分野/応用物理教育分野/情報システム教育分野/電気電子ネットワーク教育分野  
Mathematical Sciences / Physics / Applied Physics / Information Systems / Electrical and Computer Engineering



#### 博士課程前期・後期

Master's and Doctoral Programs

#### ● 人工環境専攻

Department of Artificial Environment

安全環境工学プログラム/環境学プログラム/社会環境プログラム

Safety, Environment and System Engineering / Environmental Science / Social Environment

#### ● 自然環境専攻

Department of Natural Environment

生態学プログラム/地球科学プログラム/環境学術プログラム  
Ecology and Bioscience / Earth and Biological Science / Environmental Studies

#### ● 情報環境専攻

Department of Information Environment

情報学プログラム/数理科学プログラム/情報学術プログラム  
Informatics / Mathematical Science / Information Studies



#### 博士課程前期

Master's Programs

#### ● 建築都市文化専攻

Department of Architecture and Urban Culture

建築都市文化コース/建築都市デザインコース(Y-GSA)/横浜都市文化コース(Y-GSC)

Architecture and Urban Culture / Architecture (Y-GSA) / Culture (Y-GSC)

#### ● 都市地域社会専攻

Department of Infrastructure and Urban Society

都市地域社会コース/国際基盤学コース(IGSI)/インフラストラクチャー管理学コース(IMP)

Infrastructure and Urban Society / International Infrastructure (IGSI) / Infrastructure Management (IMP)

#### 博士課程後期

Doctoral Program

#### ● 都市イノベーション専攻

Department of Urban Innovation



#### 修士課程

Master's Program

#### ● 研究テーマ

Research Themes

応用AI/社会データサイエンス/リスク共生学/国際ガバナンス/成熟社会/人間力創生/横浜アーバンリスト

Applied AI / Social Data Science / Risk Symbiosis / Global Governance / Mature Society / Human Intelligence / Yokohama Urbanist





### 3 理想的な立地と環境 Ideal Location and Environment

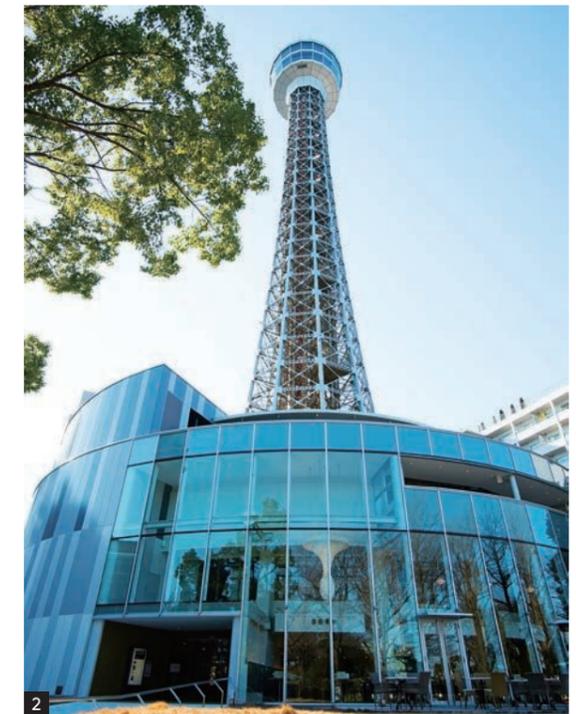
## ゆとりある大都市、横浜

Capacious Metropolis, Yokohama

YNUがキャンパスを構える横浜は、東京や羽田空港からアクセスが良く、大都市ですが東京ほど混雑していません。

外国人を含め、大勢の観光客が訪れるお洒落で魅力的な街ですが、ベッドタウンでもあるため生活環境が整っており、安全で住みやすい街です。またわずか150年で小さな漁村から日本第2位の大都市に発展した非常にユニークな歴史を持つとともに、鉄道・日刊新聞・街灯・水道・テニス・ビールなど、多くの西洋文化の「日本発祥の地」でもあります。

The campus of YNU is located in Yokohama, a big city with convenient access to Tokyo and Haneda Airport. Less crowded than Tokyo, this charming city not only attracts many foreign and local visitors, but also provides an excellent living environment as a safe and comfortable commuter town. Having experienced a unique transition from a small fishing village to Japan's second largest city in just 150 years, it is the starting point of Western culture in Japan, including railways, daily newspapers, city lights, water supply, tennis, and beer.



- 1 横浜みなとみらい21 (Minatomirai 21)
- 2 横浜マリンタワー (Marine Tower)
- 3 横浜中華街 (Yokohama Chinatown)
- 4 横浜港大さん橋国際客船ターミナル (Osanbashi International Passenger Terminal)
- 5 横浜ベイブリッジ (Yokohama Bay Bridge)
- 6 横浜赤レンガ倉庫 (Red Brick Warehouse)

Yokohama Visitor's Guide

[www.welcome.city.yokohama.jp](http://www.welcome.city.yokohama.jp)

交通アクセス



30min

From Tokyo Station & Haneda Airport

大都市



2nd

Largest City in Japan

人口



3.7million

Population of

年間観光客



36million

Tourists / year

歴史



150years

Developed within

日本発祥の地



1st

City in Japan to Adopt Western Culture





## 緑豊かなキャンパス

Green Campus

すべての学部・大学院が集まっているYNUの常盤台キャンパスは、日本で最初の18ホールのゴルフ場である「程ヶ谷カントリー倶楽部」の跡地に建てられました。横浜駅からわずか3kmしか離れていませんが、まるで公園のように緑が広がっています。勉強・研究に集中できるとともに、リラックスした学生生活が過ごせる理想的な環境です。

The Tokiwadai Campus is home to all undergraduate colleges and graduate schools of YNU. It was constructed on a piece of land vacated by Hodogaya Country Club, the first 18-hole golf course in Japan. The green campus just 3 km away from Yokohama Station creates a park-like atmosphere, and has an excellent environment for studying and researching, as well as a relaxed campus life.



## 4 充実した施設と学生支援

### Excellent Facilities and Student Support

YNUは、多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点になることを目指しています。YNUでのキャンパスライフをイメージしてもらうため、ここでは、学生向け施設や、サービス・制度のうち、特徴的なものをいくつか紹介します。

YNU aspires to serve as a vibrant educational hub for a diverse body of students. This section features some unique services and systems for international students, along with student facilities so that prospective students can envision campus life at YNU.

## 1. 中央図書館

### Central Library

解放感のある快適な環境で、読書や学修をすることができます。約71万冊の蔵書と1200席の閲覧席がある他、ラーニング・コモンズ、ワーキングスタジオ、メディアホール、カフェ等が設置されており、多機能スペースとしても利用されています。この他、学内には社会科学系研究図書館と理工学系研究図書館があります。

Open and comfortable environments in the central library guarantee effective reading and studies. With roughly 710,000 books and 1,200 seats, the library is also used as a multi-functional space equipped with a common learning space, a working studio, a media hall, a cafe, and other facilities. There are two other libraries on campus: the Social Science Library and the Science and Technology Library.



## 2. 学生センター

### Student Center

奨学金、授業料免除、寮、ピザの更新、課外活動、交換留学、就職活動などの相談や申請にワンストップサービスで対応しています。この他各種証明書の自動発行機や「なんでも相談室」を利用することもできます。

The center provides one-stop services for consultation and applications regarding scholarships, tuition exemption, dormitories, visa renewal, extracurricular activities, exchange programs, job hunting, and so forth. In addition, automated certificate issuing machines are available for obtaining various certificates. Students can also use "Nandemo Sodan Shitsu" (the all-round support service).



## 3. キャリアサポートルーム

### Career Support Room

YNUでは、就職ガイダンス、企業研究セミナー、面接対策講座、企業説明会などを行っています。キャリアサポートルームでは企業から送られてきた説明会情報や求人情報を掲示しているほか、OB・OG名簿検索、公務員関係資料・インターンシップ情報などを収集できます。また、個別の就職相談も行っています。就職・進学状況は25ページを参照してください。

YNU organizes career guidance, company research seminars, a job interview course, company information sessions, and other events for international students who wish to find employment in Japan. Our career support room provides individual career consultation services aside from posting company information sessions and job offers from companies. Refer to p.25 to find out about employment and further studies.



## 4. 学生寮

### Student Dormitories

YNUでは、4つの学生寮があり宿舎、合計部屋数600室以上を提供しています。経済支援の目的をもつ峰沢国際交流会館、留学生との共同生活を体験できる常盤台インターナショナルレジデンス、通学定期の範囲に横浜やみなとみらい地区が含まれる大岡インターナショナルレジデンスから、自分にあった寮を見つけてください。留学生には留学生会館もあります。また、一部にバリアフリー室、部屋数は限られますが、夫婦室や家族室もあります。

YNU offers four student dormitories and accommodations, totaling more than 600 rooms. Please find the dormitory that best suits your needs from the Minezawa International House, which has the purpose of financial aid, the Tokiwadai International Residence, where you can experience shared living with international students, and the Ooka International Residence, which includes Yokohama and the Minatomirai area within the commuting range. There is also an International Student House for international students. In addition, some of the dormitories have barrier-free rooms, and a limited number of rooms are available for married couples and families.

### 常盤台インターナショナルレジデンス

#### Tokiwadai International Residence



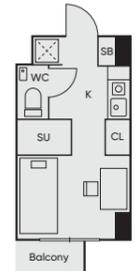
#### シェアタイプ\*

##### Shared Type\*



#### 個室タイプ

##### Single Room Type

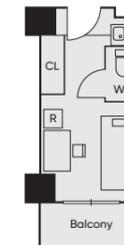


戸数・面積	Number of Rooms, Size	112 / 8m <sup>2</sup> (シェア) 166 / 16m <sup>2</sup> (個室)	Shared Single
通学時間	Commuting Time	キャンパス内	On campus
入居期間	Contract Period	最大で修業年限の年数内	Up to the number of years of study
入居一時金	Deposit	¥55,000 (税込)	(tax incl.)
賃料 (月額)	Monthly Rent	¥32,500 (シェア) ¥43,500 (個室)	Shared Single
共益費 (月額)	Monthly Management Fee	¥6,300	
水道光熱費 (月額)	Monthly Utilities	¥15,510 (税込)	(tax incl.)

### 大岡インターナショナルレジデンス\*

#### Ooka International Residence\*

戸数・面積	Number of Rooms, Size	252 / 12m <sup>2</sup>
通学時間	Commuting Time	徒歩・地下鉄 約40分 40 min. by subway and foot
入居期間	Contract Period	最大で修業年限の年数内 Up to the number of years of study
入居一時金	Deposit	¥55,000 (税込) (tax incl.)
賃料 (月額)	Monthly Rent	¥33,000
共益費 (月額)	Monthly Management Fee	¥11,000



### 峰沢国際交流会館\*

#### Minezawa International Student Dormitory\*

戸数・面積	Number of Rooms, Size	110 / 12m <sup>2</sup>
通学時間	Commuting Time	徒歩5分 5 min. by foot
入居期間	Contract Period	最大2年 Up to 2 years
入居一時金	Deposit	¥0
賃料 (月額)	Monthly Rent	¥5,700
共益費 (月額)	Monthly Management Fee	¥5,130



### 留学生会館 (留学生のみ入居可)

#### International Student House (For International Students)

戸数・面積	Number of Rooms, Size	128 / 16m <sup>2</sup>
通学時間	Commuting Time	徒歩・地下鉄 約40分 40 min. by subway and foot
入居期間	Contract Period	最大2年 Up to 2 years
入居一時金	Deposit	¥0
賃料 (月額)	Monthly Rent	¥5,900
共益費 (月額)	Monthly Management Fee	¥9,190



\*キッチンとシャワーは共同。  
\*There are communal kitchen and shower room.

## 5. 食堂と売店 Cafeterias and Food Shops

YNUには大学生協運営の第1食堂(シェルシュ)、第2食堂(理工学部食堂)の2つの学生食堂があり、豊富なメニューを手頃な価格で提供しています。この他、カフェや大学生協、コンビニエンスストア、移動販売車でもランチや軽食を購入することができます。

There are 2 cafeterias on campus: Cafeteria 1 (Cherche) and Cafeteria 2 (College of Engineering Science Cafeteria), providing nutritious and affordable meals for students and staff members of YNU. Meals can also be bought at a cafe, University Cooperative (CO-OP), a convenience store, and food trucks.



## 7. 保健管理センター Center for Health Service Science

怪我や急病が発生した場合に応急処置を行い、必要に応じた医療機関への紹介を行うほか、精神科医やカウンセラーによる心の健康相談や、年に2回の定期健康診断、就職・進学・教育実習等に必要健康診断証明書の発行なども行っています。

This center provides emergency care in the event of an injury or sudden illness and refers patients to a medical institution when needed. In addition, it also offers mental health consultations from a psychiatrist or counselor, routine health checks twice a year, and health check certificates for job recruitment, applying for further education, or carrying out practical education work.

## 9. コンタクト教員制度 Contact Teacher System

学生一人一人に対して、相談窓口となる担当教員を定めたコンタクト教員制度を導入しています。日々の学習や履修科目についての相談を受けるだけでなく、学生ポートフォリオに基づき継続的なサポートを行います。

YNU has introduced a contact teacher system in which a teacher is assigned to each student to serve as a consultation contact. In addition to providing consultation on day-to-day study and coursework, the contact teacher provides ongoing support based on the student's portfolio.

## 6. 交換留学制度 Exchange Program

YNUでは毎年約50名が世界各国の協定校へ交換留学生として留学しています。また、交換留学以外にも様々な短期の留学プログラムも用意しています。海外の協定校への交換留学制度を利用すると、協定校へ授業料を払わずに留学することができます。

Every year, YNU sends about 50 students to partner universities around the world through exchange programs. Aside from student exchange programs, YNU also organizes various short-term overseas study programs. Through the exchange program to a partner school abroad, students can study at the partner school without paying tuition fees.



## 8. クラブ・サークル活動 Club and Society Activities

大学生活を彩る一つの活動としてクラブ・サークル活動があります。YNUには、体育系サークルと文化系サークルがそれぞれ40団体以上あり、多くの学生が積極的に活動をしています。

Club and society activities are a part of the activities that color university life. At YNU, there are over 40 sports-related groups and 40 cultural groups, and many students including international students actively participate.



## 10. 地域実践教育研究センター Global-Local Education and Research Center

全学の学部生を主対象とした副専攻プログラム「地域交流科目」などにより、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる21世紀型人材育成を体系的に行うとともに、内外の諸機関・諸地域と連携しながら教育・研究・実践活動を行い、広く情報を発信しています。

The Center systematically educates 21st-century human resources capable of solving regional issues from a global perspective through such programs as "Local-exchange Subjects," a minor program mainly for undergraduate students at YNU. It conducts education, research, and practical activities in cooperation with various institutions and regions in Japan and abroad and disseminates information widely.

## 11. 無料の日本語クラス Free Japanese Language and Culture Courses

YNUの留学生は、日本語・日本文化の授業を無料で受講することができます。初級から上級まで6段階に分かれ、会話・作文・漢字等のスキル別のクラス編成もされているので、自分のレベルや学習目標に応じて履修することができます。留学生にとっては、様々な国・プログラムの留学生と知り合う機会にもなります。

At YNU, any international students can take courses on Japanese language and culture free of charge. Students can study Japanese based on their proficiency level and objectives, as we offer a wide variety of courses in six proficiency levels from beginner to advanced, as well as courses to gain specific skills in conversation, writing, kanji proficiency, etc. These courses are a great way to get to know other international students from various countries and programs.

## 13. チューター制度 "Tutor" (Student Supporter) System

日本人または留学生の先輩学生が「チューター」として新入留学生の日常生活や、日本語や専門の勉強に関するサポートを行います。日本語があまりできない学生や、初めて外国で一人暮らしをする学生も、安心して新生活を始めることができます。

Senior Japanese or international students serve as "tutors" for newly admitted international students to provide the necessary support for daily life and studying Japanese and other specialized subjects. In this manner, students who are not yet fluent in Japanese or those who are living abroad for the first time can start a new campus life without any worries.

## 15. アパート・マンション紹介 Assistance to Find Private Apartments

アパートなどの入居を希望する学生のため、「横浜国立大学生協同組合」が環境、通学距離等を考慮して、学生生活に適した下宿、アパート等を無料で紹介しています。「下宿、アパート情報」を必要とする方は、大学会館内の横浜国立大学生協同組合事務室に直接出向くか、横浜国立大学生協同組合の住まい紹介をご覧ください。

The University CO-OP (located in the University Hall) offers introductions and assistance regarding private apartments for free. Assistance is also offered through real estate companies. For tips and advice to search for accommodations, please check the website.

## 17. 障がい学生支援室 Support Office for Students with Disabilities

本学に在籍する障がいのある学生が障がいのない学生と同じように教育や研究に参加できるよう、学内の関係部署等と連携して、支援を行っています。修学に際してどのような困難があるかをお伺いし、どのような支援が最適なのか、一緒に相談しながら決めていきます。

Support Office for Students with Disabilities provides support for students with disabilities in cooperation with related departments within YNU so that they can participate in education and research in the same way as students without disabilities. The office discusses with students to determine what kind of support is best suited for them.

## 12. 105&ISL 105 and International Student Lounge

YNUでは、学生サポートグループ「105」や「International Student Lounge (通称: ISL)」などが、留学生の勉強(レポートの添削、テスト対策等)や学内の各種手続きのサポートを行うほか、ウェルカムパーティー、BBQ、インターナショナルフードパーティーなど、日本人と留学生の交流イベントを多数企画しています。

At YNU, student support groups "105" and the "International Student Lounge (ISL)" provide support in studies (proofreading, preparing for exams, etc.) and various procedures at the university. In addition, welcome parties, BBQ parties, international food parties, and many other events are organized to stimulate exchange among international and Japanese students.



## 14. なんでも相談室 Student Advisory Service

学生の皆さんが学生生活を送るうえで、困ったことや分からないことを気軽に相談できる場所です。学業・健康・進路・友人のことや日常生活のさまざまな事柄について、担当スタッフや専門教員が相談にのり、一緒に解決策を考えます。もちろん、相談内容の秘密は厳守します。学生センター2階にあります。

This is a service for students to freely request advice on points that are difficult or unclear in student life. Staff and specialist faculty can give advice about academics, health, career paths, friends, or any aspect of daily life and will help you think of solutions. Of course, all consultations are strictly confidential. The service is on the second floor of the student center.

## 16. 日本留学AWARDS Nihon Ryugaku Awards

YNUは日本語学校の教員が留学生に推薦したい大学を選ぶ「日本留学AWARDS」の「東日本地区国立・公立大学部門」の大賞を2017年から5年連続で受賞し、2021年に殿堂入りしました。また、2018年・2020年には「東日本地区大学院部門」(※2021年より「国立・公立大学部門」に統合)でも大賞を受賞しており、日本語学校から、進学先として非常に高い評価を得ています。

As one of the destinations that teachers of Japanese language schools would recommend to international students, YNU has won the grand prize in the Award for National and Public Universities in East Japan for five consecutive years since 2017 and was inducted into the Hall of Fame in 2021. YNU has also won the gold prize in the Award for Graduate Schools in East Japan (\*merged into the Award for National and Public Universities in 2021) in 2018 and 2020.

人事が見る大学イメージランキングで本学が2位にランクイン [www.ynu.ac.jp/hus/koho/30214/](http://www.ynu.ac.jp/hus/koho/30214/)  
 Ranked 2nd in University Image Ranking by HR

YNUは、2023年に日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者を実施した、採用した学生から見た大学のイメージ調査で、総合ランキング2位（関東甲信越地域では1位）にランクインしました。

YNU was ranked 2nd overall (1st in the Kanto Koshinetsu region) in a 2023 survey of the university's image from the perspective of HR managers, as assumed through the students they had hired, at all listed companies and some leading unlisted companies, conducted by Nikkei HR, a subsidiary of Nikkei Inc. that supports job hunting and career changes.

### 大学での学費と生活費

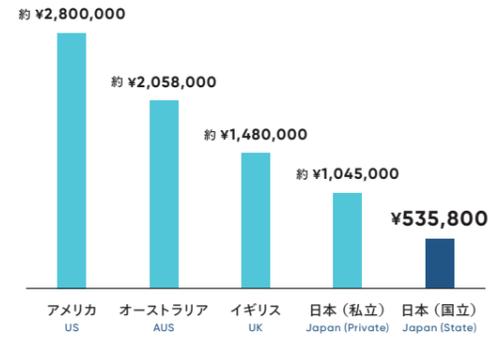
Academic Fees and Living Expenses

#### 授業料

Tuition Fees

日本の国立大学の授業料は、欧米の大学や日本の私立大学と比較すると非常に経済的です。（海外の協定校への交換留学制度を利用すると、協定校へ授業料を払わずに留学することができます。）国立大学の授業料は、学部・大学院、日本人・留学生、理系・文系に関わらず、一部の大学を除き同額です。なお、初年度のみ入学金が別途かかります。

Studying at Japanese national universities is markedly more economical compared to Western universities and Japanese private universities, which charge a high tuition. At Japanese national universities, all students pay, in principle, the same tuition regardless of their majors, nationalities and degree levels. In addition, an admission fee is charged in the first year.



※年間授業料の国際比較。算出は文部科学省「教育指標の国際比較」及び「トビタテ留学JAPAN」ウェブサイトに基づく。円換算は2018年3月末現在。  
 \* The calculation is based on the international comparison of indicators of education systems by the MEXT and the campaign website titled "Tobitate! Ryugaku Japan." Conversion into yen is based on the foreign exchange rate as of the end of March 2018.

YNUでの初年度の学費  
 First Year's Academic Fees

$$\left[ \begin{array}{l} \text{入学金} \\ \text{Admission Fee} \end{array} \right] \text{ ¥282,000 } + \left[ \begin{array}{l} \text{授業料 (年額)} \\ \text{Annual Tuition} \end{array} \right] \text{ ¥535,800 } = \left[ \begin{array}{l} \text{合計} \\ \text{Total} \end{array} \right] \text{ ¥817,800 }$$

#### 高等教育の修学支援新制度

2020年4月から高等教育の修学支援新制度（入学科・授業料等減免および給付型奨学金の支給）が開始しました。本学は大学等における修学の支援に関する法律に基づき、文部科学省により一定の要件を満たすことの確認を受け、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定されています。これに加え、入学前1年以内に学費を主として負担している者が死亡し、または本人もしくは学費負担者が風水害等の災害を受けた場合で、入学科の納入が著しく困難であると認められる者については、申請者の中から選考のうえ、入学科の全額または一部の額を免除する制度がありますので、該当する方はご相談ください。

#### 私費外国人留学生授業料免除制度

Tuition Waiver Program for Privately Financed International Students

私費外国人留学生授業料免除制度は学業成績の優秀な外国人留学生の受入れ促進や入学後の奨学支援を行うことを目的とした制度です。本学への入学時に「留学」ビザを取得できる者で、本学の学部または大学院の正規課程に私費外国人留学生として入学するために本学が指定する入学試験に出願するものが対象です。

This program is to promote the acceptance of academically excellent international students and provide them with financial support after their admission to YNU. Those eligible are privately financed international students who can acquire the "Student" visa when admitted to YNU.

#### 奨学金

Scholarship

学業や人物が優れている学生が経済的理由により修学が困難であると認められる場合に学資の貸与等を行う制度です。YNUが取り扱う奨学金制度には、学内奨学金、日本学生支援機構（JASSO）、地方公共団体および民間育英団体奨学金などがあります。また、留学生向けに、日本政府（文部科学省）奨学金（国費留学生制度）やYNU独自の奨学金、外国政府による奨学金、日本学生支援機構の私費外国人留学生学習奨励費給付制度や民間の奨学金等があります。

YNU offers a variety of scholarships, including YNU Scholarships, the Japanese government (Monbukagakusho: MEXT), Japan Student Services Organization (JASSO) scholarships, and scholarships from local governments and private scholarship organizations.

#### 12か月の生活費の目安

Estimated Living Expenses (12 Months)

※家賃は大学近辺のワンルームおよび1Kの家賃相場の平均値。寮の場合は、¥128,880～¥738,000。「その他の生活費」は日本学生支援機構「令和2年度学生生活調査結果」に基づき算出。家賃・生活費はライフスタイルによって異なるため、上記の金額はあくまで目安。

\* "Rent" is the average market rent for studio and 1K apartments in the vicinity of YNU. 128,880~738,000 yen for dormitory. "Other living expenses" are calculated based on the results of the 2020 Student Life Survey by JASSO. The above figures provide only a rough indication as living expenses vary depending on the lifestyle. Rent, Other living expenses, Other daily expenses, Food, Entertainment and personal spending, Utilities.

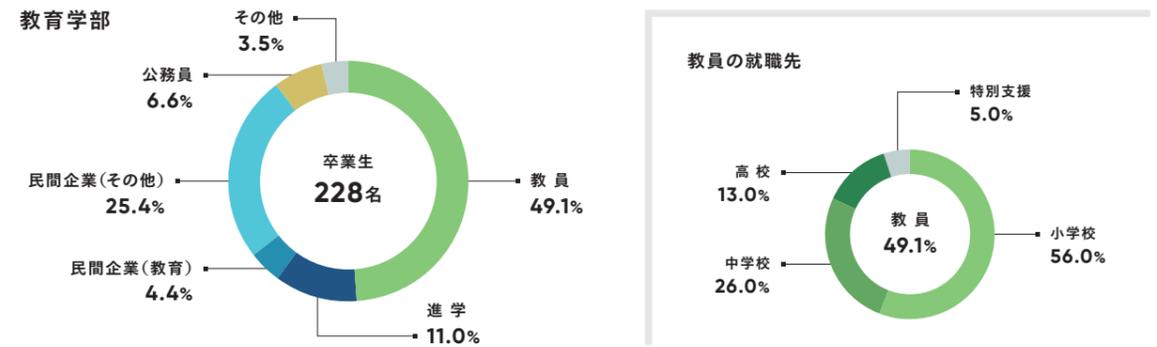


### 就職状況

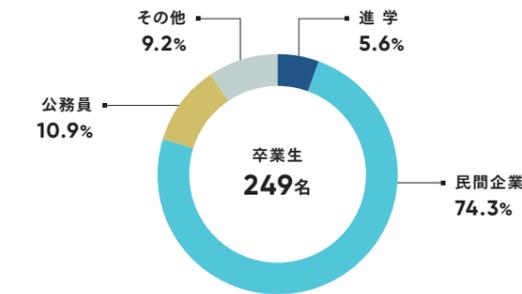
Career Paths

#### 進路状況 (2022年度卒業生)

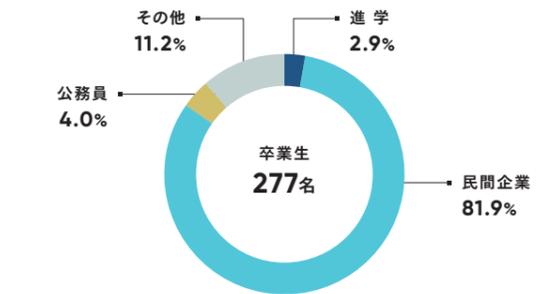
偏りなく、幅広い業界・幅広い規模の企業に就職しているのが特徴です。日本有数の企業へ就職したり、日本最難関の大学院へ進学していることは、YNUが提供する教育の質が高いことを示しています。



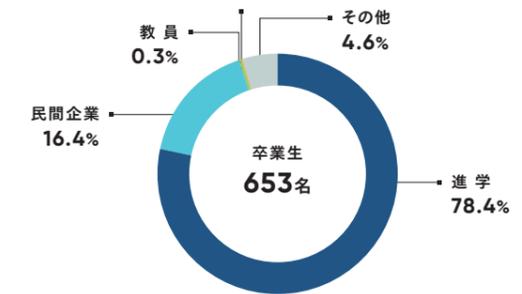
#### 経済学部



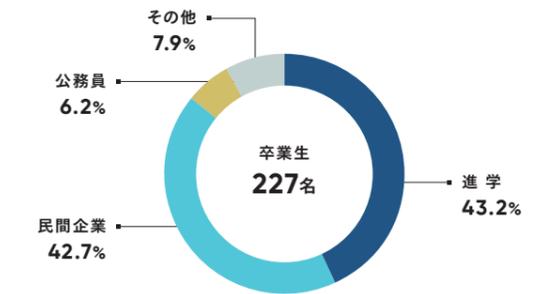
#### 経営学部



#### 理工学部



#### 都市科学部



## 2022年度卒業生の進路

教育学部	
教育、学習支援	<p>学校教員 神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、大和市、海老名市、綾瀬市、小田原市、山形県、千葉県、東京都、新潟県、富山県、私立、他</p> <p>進学 横浜国立大学大学院、名古屋大学大学院、東京大学大学院、他</p> <p>民間（教育関係） 臨海、ライオンズ、リンクアカデミー、日本入試センター、日立アカデミー、他</p> <p>その他 横浜市役所、神奈川県庁、凸版印刷、奥村組、TIS、他</p>

経済学部	
民間企業	<p>情報通信、放送 日本アイ・ピー・エム、楽天グループ、JSOL、SHIFT、エヌ・ティ・ティ・データ、野村総合研究所、日本経済新聞社、北海道テレビ放送、コダマコーポレーション、大塚商会、他</p> <p>金融、保険、損保 横浜銀行、静岡銀行、三井住友銀行、ゆうちょ銀行、日本政策金融公庫、中央労働金庫、大和証券、SMBC日興証券、あいおいニッセイ同和損害保険、日本生命保険相互会社、三井住友海上火災保険、他</p> <p>その他（コンサルティング、商社など） EY新日本有限責任監査法人、PwCコンサルティング合同会社、アクセンチュア、有限責任監査法人トーマツ、アビームコンサルティング、電通、日本工営、デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、他</p> <p>公務員 国税庁、東京国税局、横浜税関、金融庁、厚生労働省、総務省、外務省、内閣府、公正取引委員会、横浜地方裁判所、財務省関東財務局、神奈川県庁、東京都庁、特別区、神奈川県警察、福岡市消防局</p>

経営学部	
民間企業	<p>情報通信、放送 富士通、楽天グループ、NTTドコモ、エヌ・ティ・ティ・データ、KDDI、日本アイ・ピー・エム、東日本電信電話、静岡朝日テレビ、JapanFuse、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム、他</p> <p>金融、保険、損保 三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、りそな銀行、ゆうちょ銀行、横浜銀行、静岡銀行、大和証券、SMBC日興証券、ジェシービー、日本生命保険相互会社、三井住友海上火災保険、他</p> <p>その他（コンサルティング、商社など） アクセンチュア、アビームコンサルティング、ソニーグループ、PwCコンサルティング合同会社、デロイトトーマツ税理士法人、有限責任監査法人トーマツ、EY新日本有限責任監査法人、他</p> <p>公務員 厚生労働省、国土交通省、農林水産省、神奈川労働局、東京地方裁判所、東海農政局、神奈川県庁、横浜市役所、大田区役所、札幌市役所、鎌倉市役所、群馬県庁、福井県庁、福島県庁、豊島区役所、他</p>

理工学部	
進学	横浜国立大学大学院（理工学府・環境情報学府・先進実践学環）、東京大学大学院、東京工業大学大学院、東北大学大学院、名古屋大学大学院、他
民間企業	<p>情報通信、放送 ソフトバンク、日本テレビ放送網、野村総合研究所、楽天グループ、NECソリューションイノベータ、日本アイ・ピー・エム、富士通、オービック、DYM、JSOL、他</p> <p>各種メーカー スズキ、住友電気工業、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、いすゞ自動車、任天堂、富士フィルムビジネスイノベーション、三菱電機、リコー、YKK AP、ボラー、日本発条、カネカ、本田技研工業、他</p> <p>その他（建設、輸送など） 旭化成ホームズ、日揮グローバル、アサノ大成基礎エンジニアリング、エクシオモバイル、北陸電話工事、川崎汽船、東京地下鉄、東日本旅客鉄道、大和証券、明治安田生命保険相互会社、他</p> <p>公務員 農林水産省、静岡県庁、神奈川県内広域水道企業団、尾道市役所</p>

都市科学部	
進学	横浜国立大学大学院（都市イノベーション学府・環境情報学府・先進実践学環）、東京大学大学院、東京工業大学大学院、京都市芸繊維大学大学院、岡山大学大学院、他
民間企業	<p>情報通信、放送 NTTドコモ、東日本電信電話、富士通、白泉社、オービック、NTTテクノクロス、明治安田システム・テクノロジー、日本放送協会、テレビ北海道、朝日放送テレビ、他</p> <p>建設業、プラント、電気、ガス 大林組、五洋建設、住友林業、積水ハウス、大成建設、奥村組、トヨタホーム、三井住友建設、合田工務店、日鉄エンジニアリング、日揮グローバル、他</p> <p>その他（コンサルティング、商社など） アクセンチュア、日本工営、建設技研インターナショナル、ボラス、NTTファシリティーズ、バーチャレクス・コンサルティング、東海旅客鉄道、東日本高速道路、北海道旅客鉄道、名古屋鉄道、日本通運、他</p> <p>公務員 環境省、文部科学省、防衛省、国税庁、気象庁、神奈川県庁、横浜市役所、東京都庁、伊豆の国市役所、川崎市役所、大仙市役所</p>

主な進路についての詳細はこちらをご覧ください。

For more information on career paths, please see below.

[www.ynu.ac.jp/career/support/data/](http://www.ynu.ac.jp/career/support/data/)



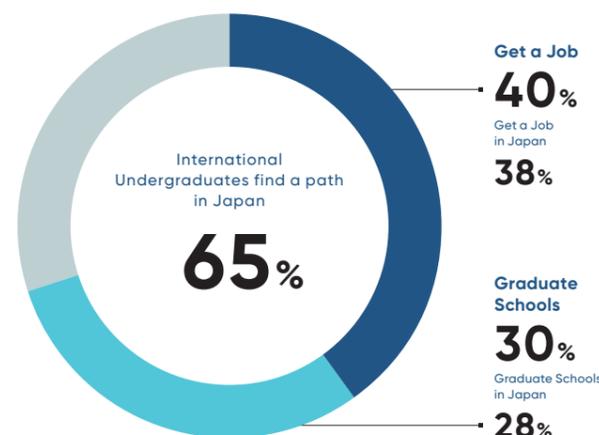
## 留学生の就職状況

Career Paths of YNU International Students

### 学部留学生

International Undergraduate Students

After graduating from YNU, a distinctively large number of international students find employment in Japan or advance to Japanese graduate schools. Their recruitment by major Japanese companies demonstrates the high opinion of YNU among Japanese companies. Likewise, admission to the most prestigious Japanese graduate schools reflects the high quality of education offered by the university.



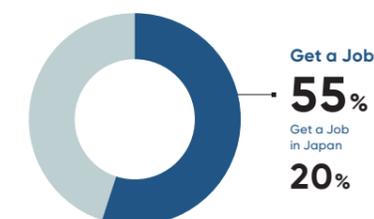
### 修士課程留学生

International Master's Students



### 博士課程留学生

International Doctoral Students



### 留学生の主な就職先（日本国内）

Major Employers of YNU International Students in Japan

Accenture Japan / AIG Japan Holdings / OMRON / Kajima / Canon / Kyocera / Cookpad / Coca-Cola Bottlers Japan / Shiseido / Shimizu / SHARP / SUBARU / Seiko Epson / Takashimaya / Tokyu Construction / TOSHIBA / Toyo Engineering / TOYOTA / Nikken Sekkei / Nissan / IBM Japan / Panasonic / HITACHI / FamilyMart / FANCL / Fujitsu / Bridgestone / BOSCH / Mazda / Mitsui Sumitomo Insurance / Mitsui Fudosan / Mizuho Financial Group / Mitsubishi Chemical / Mitsubishi Heavy Industries / Mitsubishi Motors / Mitsubishi Electric / Yahoo Japan / Yamaha / The Bank of Yokohama / LINE / RICOH / LAWSON / YNU etc...

## Why Study at YNU?

YNU横浜国立大学に興味をもってください  
ありがとうございます。

この冊子は、大学進学を検討しているみなさんに、  
YNUで学ぶことの魅力を伝えたいと思い作りました。

YNUの教育や研究、キャンパスライフ、  
そして費用や将来のキャリアパスについて知り、  
学生生活のイメージを膨らませることができたでしょうか。

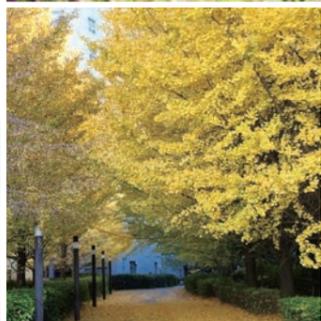
この冊子を読んで、少しでも多くの方々に  
「YNUで学びたい!」と思っていただければ嬉しく思います。

Thank you for your interest in YNU.

We prepared this booklet for prospective students who are  
looking to study at a university to learn the advantages of  
choosing YNU.

We hope this booklet helps you understand our education and  
research programs, campus life, expenses, and future career path  
so that you can clearly envision your student life with us.

We would be delighted if this booklet encourages many students  
to choose YNU.



YNU Initiative for Global Arts & Sciences  
横浜国立大学

### 入試課

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-8  
Tel: 045-339-3121 Fax: 045-339-3129  
E-mail: nyushi1@ynu.ac.jp

[www.ynu.ac.jp](http://www.ynu.ac.jp)

### International Students Section Yokohama National University

79-8 Tokiwadai, Hodogaya-ku, Yokohama,  
240-8501, Japan  
E-mail: kokusai.shien@ynu.ac.jp

[global.ynu.ac.jp/en/](http://global.ynu.ac.jp/en/)



詳しい情報を知りたい方は、Webサイトをご覧ください。

For further details, please check the website below.

高校生向け — For High School Students

[www.whystudyat.ynu.ac.jp/admissions/](http://www.whystudyat.ynu.ac.jp/admissions/)



留学生向け — For International Students

[www.whystudyat.ynu.ac.jp/international/](http://www.whystudyat.ynu.ac.jp/international/)



オンラインオープンキャンパス — Online Open Campus

[www.ynu.ac.jp/special/opencampus/](http://www.ynu.ac.jp/special/opencampus/)



YNU

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。